



題字 故前田和三部名誉教授
発行所
東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部
外科学教室同窓会(刀林会)
発行人 松本純夫

令和7年度刀林会 全員集会開催にあたって



理事長
東京医療センター
名誉院長
松本 純夫(52回)

令和7年度 刀林会全員集会を終えて



慶應義塾大学医学部
外科学(心臓血管)
木村 成卓(79回)

令和6年度末に評議員選挙が定款に従い行われ、互選により理事・代表理事が選出され、理事長推薦理事の承認は6月7日(土)に開かれた社員総会で行われました。傾聴すべきご意見は吉野 肇一元理事長からのものでした。卒業50年以上会員からの理事選出枠が3名と少なく高齢化社会となった現状にそぐわないとの意見であった。80歳以上の会員は年会費免除されています。また卒業50年以上で80歳未満の会員は年会費を収めているにも関わらず理事枠が少なくなる

点は会員相互の公平性に照らして一考に値すると受け止めています。令和7年10月定期理事会において検討し改善案を次年度社員総会に提起するとしました。全員集会では恒例に従って刀林会および教室の年間報告、令和6年度財務諸表、刀林賞論文一覧、学会支援募金趣意書・予算書の説明が行われました。

恒例の講演は日清食品ホールディングスCEOの安藤宏基様にお願ひしました。講演はいきなり「Are you hungry?」と1992年のコマースリアルニメ

から始まりました。氏曰く、「商品名を挙げないコマースリアルでした」カンヌで開かれた広告関係の国際的集まりでグランプリを獲得しましたと、CMは評判を呼んでシリーズ化され、マンモス以外の原始哺乳類も登場し、原始人の命を懸けた闘いが1995年までオンエアされたそうです。消費者向けのコマースリアルも時代に合せて変わっていくのであると、日清のどん兵衛CM「二軍どん兵衛どんかぶり」吉高由里子・板垣李光人などを例に挙げてZ世代にささるCMアニメを次々と提示しながら、「最近も若い担当者のCM提案をCEOとして見るのだがよく分からなくなつた」とコメントされたときは、静かな笑いが会場を満たした。国内向け商品ばかりでなく、販路を世界に広げていくプロセスや戦略についてもお話しをされたが、宗教や嗜好が異なる商圏では商品の味について土着の人たちに受け入れてもらうべく緻密な戦略を立てる必要性に触れられた。我々も医療医学の分野で新しい知見を求めて戦略を立てるわけであるが、一脈通ずるものがあると感じた次第でした。

安藤CEOは2024年度大学学部卒業式の塾員代表祝辞を述べられています。三つの言葉「Hungry to win」勝利へのこだわり、勝つまでやめない執念、「Crave makes the future」クレイジーなこそが未来を創っていく。常識にとらわれない発想こそが未来を創っていく。「組織に必要なのは忠誠心ではなく、正義感」常識を疑って雰囲気になれず意見を挙げる勇氣を持つことと理解されます。日清食品の創設者安藤百福から会社を引き継いで丁度40年の安藤宏基CEOからのメッセージは会員諸君に届いたものと感じています。

結びとして安藤CEOは医学部に60億円の寄付を下され、安藤百福翁の名前を冠した研究所が創設される予定であることを記し御礼の言葉としたい。

令和7年6月7日(土)、昨年と同様に明治記念館鳳凰の間にて令和7年度刀林会全員集会が開催されました。今年も非常に多くの先生方に参加していただき、盛大な会となりました。

全員集会では、まず初めに松本純夫理事長及び外科学教室主任の志水秀行教授から「年間報告」が例年通り行われました。また本年度は乳腺外科の設立、理事長の瑞宝中綬章授章、北川雄光教授の慶應義塾副学長就任という慶事が続き、その報告もなされました。

続きまして「各委員会報告」、「刀林賞表彰」、「会計報告」、「学会支援募金のお願ひ」、「新人紹介」が例年通り行われました。「刀林賞表彰」では刀林賞(水野翔大君(94回)及び刀林奨励賞(齋藤慶幸君(89回)、竹村裕介君(91回))の「受賞報告」が行われました。三名の発表とも諸先輩方を前に堂々としたもので、賞に値する素晴らしいものでした。その後松本理事長より賞の授与が行われました。

「新人紹介」では、関連病院から5名(一般・消化器外科1名、呼吸器外科2名(1名は昨年度入会)、心臓血管外科2名(1名欠席))の新入会者、また99回・101回相当・102回・102回相当にあたる計26名(1名欠席)の新入室者の自己紹介がなされました。本年度も、刀林会の一員として、また外科医として頑張っていくという強い意気込みを皆さんから感じることができ、非常に頼もしく感じました。全員集会の最後には、本年度より設立された乳腺外科の林田哲初代教授から、教授就任のご挨拶を頂き、これからの外科学教室の発展が大いに期待される内容でした。

次に講演会に移り、本年度は、日清食品ホールディングスCEOであり慶應義塾の大先輩でもある安藤宏基様より、「日清食品のマーケティング戦略とフードテックの未来」というタイトルでご講演をいただきました。普段医療を行う上であまり接することのない、一流企業におけるマーケティング

戦略について、我々が幼少期よりなじみのある多くの動画を交えながらお話しいただき、講演後には活発な質疑応答もなされ大変興味深いものでした。安藤様からは医学部へも多大なるご寄付を頂いており、本当に感謝の気持ちで一杯です。その後は恒例の集合写真撮影が行われ、懇親会へと場を移しました。本年度の参加会員は186名で、写真撮影の際には皆素晴らしい表情で写真が撮影されました。志水秀行教授の開会のご挨拶の後、山田公雄先生(35回)の乾杯のご発声で懇親会の開催となりました。本年度も多くの会員の多くの方にご参加いただき、大変賑やかに盛り上がりまして、会の途中では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理事長へ叙勲祝いの花束贈呈が行われました。懇親会の締めには岡田純一君(99回)のエールにより恒例の「若き血」を全員で斉唱し、会場は一体感に包まれました。最後に小児外科の藤野明浩教授より閉会のご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。来年以降も多くの会員の皆様に親睦を深めていただける会になれば幸いです。



講演会 日清食品ホールディングス 安藤様

恒例の講演は日清食品ホールディングスCEOの安藤宏基様にお願ひしました。講演はいきなり「Are you hungry?」と1992年のコマースリアルニメ

から始まりました。氏曰く、「商品名を挙げないコマースリアルでした」カンヌで開かれた広告関係の国際的集まりでグランプリを獲得しましたと、CMは評判を呼んでシリーズ化され、マンモス以外の原始哺乳類も登場し、原始人の命を懸けた闘いが1995年までオンエアされたそうです。消費者向けのコマースリアルも時代に合せて変わっていくのであると、日清のどん兵衛CM「二軍どん兵衛どんかぶり」吉高由里子・板垣李光人などを例に挙げてZ世代にささるCMアニメを次々と提示しながら、「最近も若い担当者のCM提案をCEOとして見るのだがよく分からなくなつた」とコメントされたときは、静かな笑いが会場を満たした。国内向け商品ばかりでなく、販路を世界に広げていくプロセスや戦略についてもお話しをされたが、宗教や嗜好が異なる商圏では商品の味について土着の人たちに受け入れてもらうべく緻密な戦略を立てる必要性に触れられた。我々も医療医学の分野で新しい知見を求めて戦略を立てるわけであるが、一脈通ずるものがあると感じた次第でした。

安藤CEOは2024年度大学学部卒業式の塾員代表祝辞を述べられています。三つの言葉「Hungry to win」勝利へのこだわり、勝つまでやめない執念、「Crave makes the future」クレイジーなこそが未来を創っていく。常識にとらわれない発想こそが未来を創っていく。「組織に必要なのは忠誠心ではなく、正義感」常識を疑って雰囲気になれず意見を挙げる勇氣を持つことと理解されます。日清食品の創設者安藤百福から会社を引き継いで丁度40年の安藤宏基CEOからのメッセージは会員諸君に届いたものと感じています。

結びとして安藤CEOは医学部に60億円の寄付を下され、安藤百福翁の名前を冠した研究所が創設される予定であることを記し御礼の言葉としたい。

令和7年6月7日(土)、昨年と同様に明治記念館鳳凰の間にて令和7年度刀林会全員集会が開催されました。今年も非常に多くの先生方に参加していただき、盛大な会となりました。

全員集会では、まず初めに松本純夫理事長及び外科学教室主任の志水秀行教授から「年間報告」が例年通り行われました。また本年度は乳腺外科の設立、理事長の瑞宝中綬章授章、北川雄光教授の慶應義塾副学長就任という慶事が続き、その報告もなされました。

続きまして「各委員会報告」、「刀林賞表彰」、「会計報告」、「学会支援募金のお願ひ」、「新人紹介」が例年通り行われました。「刀林賞表彰」では刀林賞(水野翔大君(94回)及び刀林奨励賞(齋藤慶幸君(89回)、竹村裕介君(91回))の「受賞報告」が行われました。三名の発表とも諸先輩方を前に堂々としたもので、賞に値する素晴らしいものでした。その後松本理事長より賞の授与が行われました。

「新人紹介」では、関連病院から5名(一般・消化器外科1名、呼吸器外科2名(1名は昨年度入会)、心臓血管外科2名(1名欠席))の新入会者、また99回・101回相当・102回・102回相当にあたる計26名(1名欠席)の新入室者の自己紹介がなされました。本年度も、刀林会の一員として、また外科医として頑張っていくという強い意気込みを皆さんから感じることができ、非常に頼もしく感じました。全員集会の最後には、本年度より設立された乳腺外科の林田哲初代教授から、教授就任のご挨拶を頂き、これからの外科学教室の発展が大いに期待される内容でした。

次に講演会に移り、本年度は、日清食品ホールディングスCEOであり慶應義塾の大先輩でもある安藤宏基様より、「日清食品のマーケティング戦略とフードテックの未来」というタイトルでご講演をいただきました。普段医療を行う上であまり接することのない、一流企業におけるマーケティング

戦略について、我々が幼少期よりなじみのある多くの動画を交えながらお話しいただき、講演後には活発な質疑応答もなされ大変興味深いものでした。安藤様からは医学部へも多大なるご寄付を頂いており、本当に感謝の気持ちで一杯です。その後は恒例の集合写真撮影が行われ、懇親会へと場を移しました。本年度の参加会員は186名で、写真撮影の際には皆素晴らしい表情で写真が撮影されました。志水秀行教授の開会のご挨拶の後、山田公雄先生(35回)の乾杯のご発声で懇親会の開催となりました。本年度も多くの会員の多くの方にご参加いただき、大変賑やかに盛り上がりまして、会の途中では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理事長へ叙勲祝いの花束贈呈が行われました。懇親会の締めには岡田純一君(99回)のエールにより恒例の「若き血」を全員で斉唱し、会場は一体感に包まれました。最後に小児外科の藤野明浩教授より閉会のご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。来年以降も多くの会員の皆様に親睦を深めていただける会になれば幸いです。

「新人紹介」では、関連病院から5名(一般・消化器外科1名、呼吸器外科2名(1名は昨年度入会)、心臓血管外科2名(1名欠席))の新入会者、また99回・101回相当・102回・102回相当にあたる計26名(1名欠席)の新入室者の自己紹介がなされました。本年度も、刀林会の一員として、また外科医として頑張っていくという強い意気込みを皆さんから感じることができ、非常に頼もしく感じました。全員集会の最後には、本年度より設立された乳腺外科の林田哲初代教授から、教授就任のご挨拶を頂き、これからの外科学教室の発展が大いに期待される内容でした。

次に講演会に移り、本年度は、日清食品ホールディングスCEOであり慶應義塾の大先輩でもある安藤宏基様より、「日清食品のマーケティング戦略とフードテックの未来」というタイトルでご講演をいただきました。普段医療を行う上であまり接することのない、一流企業におけるマーケティング

戦略について、我々が幼少期よりなじみのある多くの動画を交えながらお話しいただき、講演後には活発な質疑応答もなされ大変興味深いものでした。安藤様からは医学部へも多大なるご寄付を頂いており、本当に感謝の気持ちで一杯です。その後は恒例の集合写真撮影が行われ、懇親会へと場を移しました。本年度の参加会員は186名で、写真撮影の際には皆素晴らしい表情で写真が撮影されました。志水秀行教授の開会のご挨拶の後、山田公雄先生(35回)の乾杯のご発声で懇親会の開催となりました。本年度も多くの会員の多くの方にご参加いただき、大変賑やかに盛り上がりまして、会の途中では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理事長へ叙勲祝いの花束贈呈が行われました。懇親会の締めには岡田純一君(99回)のエールにより恒例の「若き血」を全員で斉唱し、会場は一体感に包まれました。最後に小児外科の藤野明浩教授より閉会のご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。来年以降も多くの会員の皆様に親睦を深めていただける会になれば幸いです。

「新人紹介」では、関連病院から5名(一般・消化器外科1名、呼吸器外科2名(1名は昨年度入会)、心臓血管外科2名(1名欠席))の新入会者、また99回・101回相当・102回・102回相当にあたる計26名(1名欠席)の新入室者の自己紹介がなされました。本年度も、刀林会の一員として、また外科医として頑張っていくという強い意気込みを皆さんから感じることができ、非常に頼もしく感じました。全員集会の最後には、本年度より設立された乳腺外科の林田哲初代教授から、教授就任のご挨拶を頂き、これからの外科学教室の発展が大いに期待される内容でした。

次に講演会に移り、本年度は、日清食品ホールディングスCEOであり慶應義塾の大先輩でもある安藤宏基様より、「日清食品のマーケティング戦略とフードテックの未来」というタイトルでご講演をいただきました。普段医療を行う上であまり接することのない、一流企業におけるマーケティング

戦略について、我々が幼少期よりなじみのある多くの動画を交えながらお話しいただき、講演後には活発な質疑応答もなされ大変興味深いものでした。安藤様からは医学部へも多大なるご寄付を頂いており、本当に感謝の気持ちで一杯です。その後は恒例の集合写真撮影が行われ、懇親会へと場を移しました。本年度の参加会員は186名で、写真撮影の際には皆素晴らしい表情で写真が撮影されました。志水秀行教授の開会のご挨拶の後、山田公雄先生(35回)の乾杯のご発声で懇親会の開催となりました。本年度も多くの会員の多くの方にご参加いただき、大変賑やかに盛り上がりまして、会の途中では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理事長へ叙勲祝いの花束贈呈が行われました。懇親会の締めには岡田純一君(99回)のエールにより恒例の「若き血」を全員で斉唱し、会場は一体感に包まれました。最後に小児外科の藤野明浩教授より閉会のご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。来年以降も多くの会員の皆様に親睦を深めていただける会になれば幸いです。

「新人紹介」では、関連病院から5名(一般・消化器外科1名、呼吸器外科2名(1名は昨年度入会)、心臓血管外科2名(1名欠席))の新入会者、また99回・101回相当・102回・102回相当にあたる計26名(1名欠席)の新入室者の自己紹介がなされました。本年度も、刀林会の一員として、また外科医として頑張っていくという強い意気込みを皆さんから感じることができ、非常に頼もしく感じました。全員集会の最後には、本年度より設立された乳腺外科の林田哲初代教授から、教授就任のご挨拶を頂き、これからの外科学教室の発展が大いに期待される内容でした。

次に講演会に移り、本年度は、日清食品ホールディングスCEOであり慶應義塾の大先輩でもある安藤宏基様より、「日清食品のマーケティング戦略とフードテックの未来」というタイトルでご講演をいただきました。普段医療を行う上であまり接することのない、一流企業におけるマーケティング

戦略について、我々が幼少期よりなじみのある多くの動画を交えながらお話しいただき、講演後には活発な質疑応答もなされ大変興味深いものでした。安藤様からは医学部へも多大なるご寄付を頂いており、本当に感謝の気持ちで一杯です。その後は恒例の集合写真撮影が行われ、懇親会へと場を移しました。本年度の参加会員は186名で、写真撮影の際には皆素晴らしい表情で写真が撮影されました。志水秀行教授の開会のご挨拶の後、山田公雄先生(35回)の乾杯のご発声で懇親会の開催となりました。本年度も多くの会員の多くの方にご参加いただき、大変賑やかに盛り上がりまして、会の途中では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理事長へ叙勲祝いの花束贈呈が行われました。懇親会の締めには岡田純一君(99回)のエールにより恒例の「若き血」を全員で斉唱し、会場は一体感に包まれました。最後に小児外科の藤野明浩教授より閉会のご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。来年以降も多くの会員の皆様に親睦を深めていただける会になれば幸いです。

「新人紹介」では、関連病院から5名(一般・消化器外科1名、呼吸器外科2名(1名は昨年度入会)、心臓血管外科2名(1名欠席))の新入会者、また99回・101回相当・102回・102回相当にあたる計26名(1名欠席)の新入室者の自己紹介がなされました。本年度も、刀林会の一員として、また外科医として頑張っていくという強い意気込みを皆さんから感じることができ、非常に頼もしく感じました。全員集会の最後には、本年度より設立された乳腺外科の林田哲初代教授から、教授就任のご挨拶を頂き、これからの外科学教室の発展が大いに期待される内容でした。

次に講演会に移り、本年度は、日清食品ホールディングスCEOであり慶應義塾の大先輩でもある安藤宏基様より、「日清食品のマーケティング戦略とフードテックの未来」というタイトルでご講演をいただきました。普段医療を行う上であまり接することのない、一流企業におけるマーケティング

戦略について、我々が幼少期よりなじみのある多くの動画を交えながらお話しいただき、講演後には活発な質疑応答もなされ大変興味深いものでした。安藤様からは医学部へも多大なるご寄付を頂いており、本当に感謝の気持ちで一杯です。その後は恒例の集合写真撮影が行われ、懇親会へと場を移しました。本年度の参加会員は186名で、写真撮影の際には皆素晴らしい表情で写真が撮影されました。志水秀行教授の開会のご挨拶の後、山田公雄先生(35回)の乾杯のご発声で懇親会の開催となりました。本年度も多くの会員の多くの方にご参加いただき、大変賑やかに盛り上がりまして、会の途中では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理事長へ叙勲祝いの花束贈呈が行われました。懇親会の締めには岡田純一君(99回)のエールにより恒例の「若き血」を全員で斉唱し、会場は一体感に包まれました。最後に小児外科の藤野明浩教授より閉会のご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。来年以降も多くの会員の皆様に親睦を深めていただける会になれば幸いです。

「新人紹介」では、関連病院から5名(一般・消化器外科1名、呼吸器外科2名(1名は昨年度入会)、心臓血管外科2名(1名欠席))の新入会者、また99回・101回相当・102回・102回相当にあたる計26名(1名欠席)の新入室者の自己紹介がなされました。本年度も、刀林会の一員として、また外科医として頑張っていくという強い意気込みを皆さんから感じることができ、非常に頼もしく感じました。全員集会の最後には、本年度より設立された乳腺外科の林田哲初代教授から、教授就任のご挨拶を頂き、これからの外科学教室の発展が大いに期待される内容でした。

次に講演会に移り、本年度は、日清食品ホールディングスCEOであり慶應義塾の大先輩でもある安藤宏基様より、「日清食品のマーケティング戦略とフードテックの未来」というタイトルでご講演をいただきました。普段医療を行う上であまり接することのない、一流企業におけるマーケティング

戦略について、我々が幼少期よりなじみのある多くの動画を交えながらお話しいただき、講演後には活発な質疑応答もなされ大変興味深いものでした。安藤様からは医学部へも多大なるご寄付を頂いており、本当に感謝の気持ちで一杯です。その後は恒例の集合写真撮影が行われ、懇親会へと場を移しました。本年度の参加会員は186名で、写真撮影の際には皆素晴らしい表情で写真が撮影されました。志水秀行教授の開会のご挨拶の後、山田公雄先生(35回)の乾杯のご発声で懇親会の開催となりました。本年度も多くの会員の多くの方にご参加いただき、大変賑やかに盛り上がりまして、会の途中では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理事長へ叙勲祝いの花束贈呈が行われました。懇親会の締めには岡田純一君(99回)のエールにより恒例の「若き血」を全員で斉唱し、会場は一体感に包まれました。最後に小児外科の藤野明浩教授より閉会のご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。来年以降も多くの会員の皆様に親睦を深めていただける会になれば幸いです。

「新人紹介」では、関連病院から5名(一般・消化器外科1名、呼吸器外科2名(1名は昨年度入会)、心臓血管外科2名(1名欠席))の新入会者、また99回・101回相当・102回・102回相当にあたる計26名(1名欠席)の新入室者の自己紹介がなされました。本年度も、刀林会の一員として、また外科医として頑張っていくという強い意気込みを皆さんから感じることができ、非常に頼もしく感じました。全員集会の最後には、本年度より設立された乳腺外科の林田哲初代教授から、教授就任のご挨拶を頂き、これからの外科学教室の発展が大いに期待される内容でした。

次に講演会に移り、本年度は、日清食品ホールディングスCEOであり慶應義塾の大先輩でもある安藤宏基様より、「日清食品のマーケティング戦略とフードテックの未来」というタイトルでご講演をいただきました。普段医療を行う上であまり接することのない、一流企業におけるマーケティング

戦略について、我々が幼少期よりなじみのある多くの動画を交えながらお話しいただき、講演後には活発な質疑応答もなされ大変興味深いものでした。安藤様からは医学部へも多大なるご寄付を頂いており、本当に感謝の気持ちで一杯です。その後は恒例の集合写真撮影が行われ、懇親会へと場を移しました。本年度の参加会員は186名で、写真撮影の際には皆素晴らしい表情で写真が撮影されました。志水秀行教授の開会のご挨拶の後、山田公雄先生(35回)の乾杯のご発声で懇親会の開催となりました。本年度も多くの会員の多くの方にご参加いただき、大変賑やかに盛り上がりまして、会の途中では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理事長へ叙勲祝いの花束贈呈が行われました。懇親会の締めには岡田純一君(99回)のエールにより恒例の「若き血」を全員で斉唱し、会場は一体感に包まれました。最後に小児外科の藤野明浩教授より閉会のご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。来年以降も多くの会員の皆様に親睦を深めていただける会になれば幸いです。

「新人紹介」では、関連病院から5名(一般・消化器外科1名、呼吸器外科2名(1名は昨年度入会)、心臓血管外科2名(1名欠席))の新入会者、また99回・101回相当・102回・102回相当にあたる計26名(1名欠席)の新入室者の自己紹介がなされました。本年度も、刀林会の一員として、また外科医として頑張っていくという強い意気込みを皆さんから感じることができ、非常に頼もしく感じました。全員集会の最後には、本年度より設立された乳腺外科の林田哲初代教授から、教授就任のご挨拶を頂き、これからの外科学教室の発展が大いに期待される内容でした。

次に講演会に移り、本年度は、日清食品ホールディングスCEOであり慶應義塾の大先輩でもある安藤宏基様より、「日清食品のマーケティング戦略とフードテックの未来」というタイトルでご講演をいただきました。普段医療を行う上であまり接することのない、一流企業におけるマーケティング

戦略について、我々が幼少期よりなじみのある多くの動画を交えながらお話しいただき、講演後には活発な質疑応答もなされ大変興味深いものでした。安藤様からは医学部へも多大なるご寄付を頂いており、本当に感謝の気持ちで一杯です。その後は恒例の集合写真撮影が行われ、懇親会へと場を移しました。本年度の参加会員は186名で、写真撮影の際には皆素晴らしい表情で写真が撮影されました。志水秀行教授の開会のご挨拶の後、山田公雄先生(35回)の乾杯のご発声で懇親会の開催となりました。本年度も多くの会員の多くの方にご参加いただき、大変賑やかに盛り上がりまして、会の途中では刀林会秘

書の本間敬子様より松本理事長へ叙勲祝いの花束贈呈が行われました。懇親会の締めには岡田純一君(99回)のエールにより恒例の「若き血」を全員で斉唱し、会場は一体感に包まれました。最後に小児外科の藤野明浩教授より閉会のご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。来年以降も多くの会員の皆様に親睦を深めていただける会になれば幸いです。

「新人紹介」では、関連病院から5名(一般・消化器外科1名、呼吸器外科2名(1名は昨年度入会)、心臓血管外科2名(1名欠席))の新入会者、また99回・101回相当・102回・102回相当にあたる計26名(1名欠席)の新入室者の自己紹介がなされました。本年度も、刀林会の一員として、また外科医として頑張っていくという強い意気込みを皆さんから感じることができ、非常に頼もしく感じました。全員集会の最後には、本年度より設立された乳腺外科の林田哲初代教授から、教授就任のご挨拶を頂き、これからの外科学教室の発展が大いに期待される内容でした。

次に講演会に移り、本年度は、日清食品ホールディングスCEOであり慶應義塾の大先輩でもある安藤宏基様より、「日清食品のマーケティング戦略とフードテックの未来」というタイトルでご講演をいただきました。普段医療を行う上であまり接することのない、一流企業におけるマーケティング

戦略について、我々が幼少期よりなじみのある多くの動画を交えながらお話しいただき、講演後には活発な質疑応答もなされ大変興味深いものでした。安藤様からは医学部へも多大なるご寄付を頂いており、本当に感謝の気持ちで一杯です。その後は恒例の集合写真撮影が行われ、懇親会へと場を移しました。本年度の参加会員は186名で、写真撮影の際には皆素晴らしい表情で写真が撮影されました。志水秀行教授の開会のご挨拶の後、山田公雄先生(35回)の乾杯のご発声で懇親会の開催となりました。本年度も多くの会員の多くの方にご参加いただき、大変賑やかに盛り上がりまして、会の途中では刀林会秘

懇親会の様子

承認可決した。なお、被選任者兩名は席上就任を承諾した。

記

監事 山田好則、木村成卓

第4号議案 刀林賞選定の件

刀林賞選考委員会島津元秀委員長より、候補論文7編の中から、2月の刀林賞

選考委員会において厳正なる審査の結果、以下3名が選ばれたことが説明された。

刀林賞

水野翔大君（94回）

刀林奨励賞

齋藤慶幸君（87回）

竹村裕介君（91回）

議長がその賛否を議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第5号議案 学会支援募金承認の件

・第53回日本潰瘍学会 吉田昌会長

・第62回移植学会総会 河内茂行会長

・第42回小児外科学会秋季シンポジウム 渕本康史会長

議長は、上記3学会の趣旨に関して説明し、上記の3学会への寄付について議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第6号議案 新入会者の件

益田 智章君 川崎市立川崎病院 心臓血管外科（推薦者 尾本正君71回）

尤 礼佳君 済生会中央病院 血管外科（推薦者 原田裕久君71回）

議長が上記2名の入会について議場に諮ったところ、満場一致で承認となった。

議長は、議事録署名人と

して宮原保之、松田諭の2名を推薦し、これを議場に諮ったところ、異議なく承認された。

議長は、以上をもつて本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、午後2時30分閉会を宣した。

以上、社員総会の議事の経過並びに結果が正確であることを証するため、議事録を作成し議長及び議事録署名人2名がこれに記名押印する。

令和7年6月7日

一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会

議長 代表理事 松本純夫

議事録署名人 宮原保之

松田 諭

令和7年度臨時社員総会議事録

日時…令和7年6月7日（土）15時45分～16時25分
場所…明治記念館 鶴亀の間

社員総数…58名

出席社員数…53名（36名現

地出席 委任状による出席

15名）

現地出席 吉野（44）幕内

（49）河瀬（49）安藤（50）

松原（51）松本（52）小島（55）

磯部（59）小澤（60）古梶（63）

北川（65）澤藤（67）伊藤（68）

長（69）石井（70）原田（71）

齋藤（72）川久保（73）北郷

（74）藤野（75）岡林（78）朝倉（81）茂田（85）田中（86）松田（87）今井（89）竹内（91）蛭川（92）水野（94）城崎（96）川本（98）藤原（99）清水（100）松川（101）

委員長は、以上をもつて本委任状による出席…竹中

（54）今野（57）黒田（61）浅村（62）古川（66）下島（76）

秋山（77）松原（79）半田（80）

高野（82）和田（84）庄司（88）

前田（90）阿部（93）辻（95）

方宇（97）

出席監事の氏名…山田（53）

木村（79）

陪席者…堤淳一 堤健太郎（以上顧問弁護士）、岡田泰（税理士）、本間敬子（事務局）

議長は、本日の議事録を配布資料として、各社員に配布する。

資料1 2025年度新役員（理事）名簿

資料2 令和7年度事業計画

資料3 令和7年度予算案

資料4 理事長推薦理事名簿

定刻になり、松本純夫議長より、社員総会の定款所定数を満たしたので有効に成立した旨が宣され、議事が開始された。

1. 報告事項

・代表理事就任の件

議長より、理事会により松本純夫理事長が理事長に再任する旨が決定し、任期継続となったことが報告された。

・副理事長に志水秀行教室主任と脳神経外科の宮原保之氏（57）が選任されたことが報告された。

2. 決議事項

第1号議案 令和7年度事業計画（資料2）

議長は、資料2に沿って令和7年度事業計画案を説明した。昨年度との変更はない。計画について、満場異議なく承認された。

第2号議案 令和7年度予算案承認の件（資料3）

財務委員長小澤壯治理事より資料3に沿って説明がなされた。

・II支出の部 事業費② 総会補助

・会費収入が200万円増加した。

・3本立てにして分かりやすくする方針である、①一般会計、②刀林会基金、③学会支援基金へと変更した。

・退職準備金を10万円ずつ積み上げる。

議場に諮ったところ、満場異議なく承認された。

吉野評議員…理事在任時に、理事会で卒後50年以上の会員枠からの理事数の増員を検討するよう提案したところ、その後将来構想委員会における討議の結果、否決されたという報告を受けた。しかし、この度社員総会で以下の通り提案するとともに、その後の懇親会で会員から話を聞いてみた。提案の内容は以下の通りである。

・卒後50年以上の会員枠からの理事数を、現在の1名から2名にされたい。

・3本立てにして分かりやすくする方針である、①一般会計、②刀林会基金、③学会支援基金へと変更した。

・退職準備金を10万円ずつ積み上げる。

議場に諮ったところ、満場異議なく承認された。

第3号議案 理事5名選任の件（資料4）

議長は、本日の行われた定時社員総会の終結をもって任期が満了した理事のうち、理事長推薦理事について、その後任者を選任する必要があるところ、理事長推薦理事として、以下の5名を選任したい旨を述べ、その賛否を問うたところ、それぞれ満場一致をもって承認された。

島津元秀、宮原保之、菅貞郎、萬谷京子（再任）

戸田正博（新任）

被選任者のうち、島津元秀、菅貞郎及び萬谷京子の各氏は席上就任を承諾した。

その他

・吉野（44回）評議員より提案があり、以下の質疑がなされた。

疑心答は以下の通りである。

議長…評議員及び役員の

選出方法は、法人化した後

も以前と変更はなかった。

吉野評議員は理事長在任時に卒後50年以上の会員からの理事数の増員を提案されなかった。若い先生方も増えていて、中、このご提案はご理解いただけないのではない。

吉野評議員…理事長在任時には理事数の増員の必要性に気づかず、そのような提案をしなかった。しかし、今その必要性を感じるので提案した。会費が免除されるのは80歳である。卒後50年で74歳を迎えた場合にはもう5年間会費を払う必要がある、卒後50年以上の全員の会費が免除されているわけではない。このままでは、卒後50年以上も80歳未満の会員は会費を払わなくなるおそれがある。

船曳評議員…提案を受け容れることの都合なこと

は？

議長…理事長としては、将来構想委員会の判断を尊重したい。他方、定款52条は「理事長経験者は、名誉会長を推薦することができ

る。」という規定がある。現状名誉会長の地位でできること等について何の定めがない。そこで、例えば、社員総会として出席し、意見を表明する権利を定める等の定めを設けることも検討

することができ。それで、存命の理事長経験者は吉野評議員であり、それを適用することが考えられる。

吉野評議員…個人として

言っているのではない。

安藤評議員…却下された理由はあるのか。卒後50年で意見を表明する人もそこまでおられるのだろうか。

松原了評議員…詳しくは

わからないが、現状のまま

で宜しいのではないか、提

案は時期尚早か？

吉野評議員…卒後50年の

理事数の増加は定款変更によるのか。

堤弁護士…各枠の理事

（候補者）の数を変える手続

は、定款ではなく役員候補

者選出規則の変更による。

但し、規則の変更は社員総

会における決議事項となる。

議長…吉野評議員は、先

程のご発言で理事長在任時

には気がつかなかったとお

認めになった。

吉野評議員…理事会は、

理事長より卒業年が後の理

事でその提案に反対する人

はいない。理事長に付度す

ることが重要視されている

会ではだめだ。

議長…提案には強く抵抗

しているわけではない。吉

野評議員のこれまでの活

躍は尊重する。卒後50年は

会費を納めなくなると意見

を言わない方が多いのでは

ないか。卒後50年～80歳ま

での会員、会費が免除され

る80歳以降の会員の取扱も

含めて、意見を集約する手

続をした上でもう一度理事

会で採んで、2年以内に結

論を出すのが妥当ではない

かと考える。評議員であれ

ば、社員総会を通じて意見

を出すことができる。

議長は、議事録署名人と

して宮原保之、松田諭の2

名を推薦し、これを議場に

諮ったところ、異議なく承

認された。

議長は以上をもつて本日

予定した議事の終了を告げ、

他に案件がないことを確認

後、16時25分閉会を宣した。

以上、理事会の議事の経過並びに結果が正確であることを証するため、議事録を作成し議長及び議事録署名人が記名押印する。

令和7年6月7日

一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会

議長 代表理事 松本純夫

議事録署名人 宮原保之

松田 諭

令和6年度第3回理事会議事録

日時…令和7年3月27日（水）18時30分～19時30分
場所…臨床研究棟3階外科学・脳神経外科学教室会議室またはWebにて出席

理事総数…22名

監事総数…2名

出席理事数…21名

出席監事数…2名

出席理事…

松本純夫（52）志水秀行（65）

澤藤誠（67）原田裕久（71）

藤野明浩（75）

Web出席 吉野肇一（44）

河瀬斌（49）島津元秀（53）

小島正夫（55）宮原保之（56）

小澤壯治（60）菅貞郎（61）

古梶清和（63）北川雄光（65）

萬谷京子（74相）下島直樹（76）

朝倉啓介（81）茂田浩平（85）

前田祐助（90）竹内優志（91）

辻貴之（95）

出席監事…尾原秀明（72）

Web途中出席…熊井浩一郎（46）

陪席者の氏名…

第53回日本潰瘍学会会長

吉田昌（69回相）
第42回日本小児外科学会秋季シンポジウム会長 渕本康史（66回）
新入会希望者 尤礼佳（済生会中央病院）
（同窓会係）
岡林剛史（78）木村成卓（79）山田洋平（81）加勢田馨（86相）
（顧問弁護士）堤健太郎（税理士）岡田泰（事務局）本間敬子（議長）松本純夫

定刻に至り、定款の定めにより松本理事長が議長となり、理事会の定款定足数を満たしたので本理事会が有効に成立した旨が宣され、議事が開始された。なお、議長は審議に先立ち、Web会議システムにより出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が出来る状態になっていることを確認した。

表示資料
新入会者履歴書・推薦書

《報告事項》
1. 財務委員会 財務委員長（小澤壮治、60回）より資料1に基づき、今年度会費収入に関して報告があった。予算600万を超える6,738,000円の収入があった。会費納入率は約66%である。
2. 学会支援募金委員会委員長（木村成卓、79回）より、令和6年度学会支援募金 第27回Needlescopic Surgery Meeting（浦上秀次郎会長、73回）、第97回日本胃癌学会総会（宇山一朗会長、64回相）は学会が終了したことが報告された。第62回日本小児外科学会（浮山越史会長、65回）、第84回日本脳神経外科学会（戸田正博会長、66回）、第51回日本臓器保存生物医学会（河地茂行会長、68回）は、募金継続中であることが報告された（資料2）。

選挙に入ることが報告された。

《決議事項》
第1号議案 令和7年総会（資料4）
理事長は令和7年6月7日の総会スケジュールについて議場に諮ったところ、満場一致で承認となった。
また、北川理事より、「講演者の安藤宏基様についてご紹介いただく際に60億円慶應にご寄附くださり、日清食品 安藤百福ヒューマンリサーチセンターが建設されることなどを加えてほしい」との意見があった。
第2号議案 新入会員（表示資料、履歴書・推薦書）
議長より、済生会中央病院の尤礼佳先生より入会申請があった旨を説明し、指名により推薦者である原田理事が推薦理由を説明した。議長が以上の賛否を議場に諮ったところ、満場一致で入会が承認された。尤先生より挨拶がなされた。

致で承認された。
以上の理事会決議により、社員総会における承認決議を経て、学会支援募金の準備を開始することとなった。

第4号議案 令和6年度刀林賞選考結果（資料7）
刀林賞選考委員会島津元秀委員長（53回）より以下の説明があった。
「本年は7編の応募があり、2月27日にWeb会議で選考委員会が開催され刀林賞には、水野翔大君（荻窪病院、94回）が選ばれた。
また、その他6編もどれも優秀な論文であったが、刀林奨励賞は2編の選出と決まっているので、刀林奨励賞 齋藤慶幸君（伊藤病院、89回）刀林奨励賞 竹村裕介君（熊本大学、91回）が選ばれた。」
議長が、以上の選考結果の賛否を議場に諮ったところ、満場一致で承認となり、令和6年度刀林賞、刀林奨励賞2編が決定した。
その他、以下の質疑があった。
「刀林賞なので、慶應オリジナルとか慶應内での仕事の方が評価があがるということはあるのか？」（尾原監事）
「IFだけ評価するのではなく、慶應の中での地道な仕事も評価として加味されている。」（島津委員長）
島津委員長より、「応募規定には、1編の論文で応募するとなっている、応募用紙にフリガナがないものがあり、応募規定を精読してほしい」と説明があった。

呼吸器外科教授の朝倉理事より、菱田智之現委員長の異動にともない、政井恭兵（85回相）が推薦委員となり、同委員長は委員4名の中の高橋辰郎君（81回）と決定したとの報告があった。
議長が、以上の人事の賛否を議場に諮ったところ、満場一致で承認された。
以上の議案審議の終了後、その他の事項について、議場より以下の意見があった。
「評議員選挙の際、その他卒後50年より3名選出しているが、現在の状況から5年または10年延長したらどうか。」（吉野理事）
「定款の改正も伴うので、まず将来構想委員会にて審議したい。」（理事長）
「この意見について書かれている当議事録を、『刀林』に掲載してほしい。」（吉野理事）
「決算報告について、定時社員総会の前に理事会を開いて決議をいただきたい。」（堤弁護士）
「理事会で日時を検討し、臨時理事会を決算について開催することとする」（理事長）
以上本日のWeb会議システムを用いた理事会は、終始異状なく議題の審議を終了したので、議長は以上をもって本日の議事は終了した旨を述べ19時30分に閉会を宣言し、解散した。

医学部外科学教室同窓会
議長 理事長 松本純夫
出席監事 熊井浩一郎
尾原秀明

令和7年度第1回
理事会議事録
日時…令和7年6月7日（土）14時45分～15時15分
場所…明治記念館 孔雀の間
出席理事…松本（52）小島（55）小澤（60）古梶（63）北川（65）志水（65）長（69）齋藤（72）藤野（75）林田（77）岡林（78）朝倉（81）茂田（85）松田（87）蛭川（92）水野（94）川本（98）
委任状による出席…戸田（66）下島（76）
出席監事…山田（53）木村（79）
陪席者の氏名…島津（53）菅（61）萬谷（74相）（以上、理事長推薦理事候補者として）
堤淳一、堤健太郎（顧問弁護士）、岡田泰（税理士）、本間敬子（事務局）

議事が開始された。

《決議事項》
第1号議案 代表理事（理事長）選定の件
仮議長は、代表理事松本純夫が令和7年6月7日の定時社員総会をもって理事の任期を満了し、退任したことに伴い、代表理事の地位を失っているため、その後任者を先任する必要がある旨を述べて、その選任方法を諮ったところ、議場より下記の者を後任の代表理事として推薦する旨の発言があった。仮議長がこれを議場に諮ったところ、満場異議なくこれに賛成した。

代表理事 松本 純夫
被選任者は、席上代表理事に就任することを承諾した。
次いで議長より、理事長就任の挨拶を述べた後、下記5名を理事長推薦理事とし、本理事会の後に行われる臨時社員総会の決議をもって選任を求める予定であることを述べた。
島津元秀（53回）、宮原保之（56回）、菅 貞郎（61回）、戸田正博（66回）、萬谷京子（74回相）

言があった。議長がこれを議場に諮ったところ、満場異議なくこれに賛成し、原案通り承認可決した。

副理事長 志水 秀行（重任）
宮原 保之（重任）
被選任者のうち、志水秀行氏は、席上副理事長に就任することを承諾した。

第3号議案 令和7年度事業計画案承認の件
議長は、資料2に沿って令和7年度事業計画案を説明し、その可否を議場に諮ったところ、満場異議なく承認された。

第4号議案 令和7年度予算案承認の件
小澤財務委員長は、資料3に沿って令和7年度予算案を説明し、その可否を議場に諮ったところ、満場異議なく承認された。

議長は以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、午後15時15分閉会を宣した。

以上、理事会の議事の経過並びに結果が正確であることを証するため、議事録を作成し出席代表理事及び監事が記名押印する。

令和7年6月7日
一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会
議長 代表理事 松本純夫
出席監事 山田良則
木村成卓

令和6年度収支計算書総括表

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	合 計	一般会計	刀林基金	備考
Ⅰ 収 入 の 部				
①事業収入				
学会支援募金収入	5,790,000	5,790,000	0	
②会費収入	7,904,000	7,904,000	0	
③広告収入	300,000	300,000	0	
④受取利息	9,142	3,663	5,479	
⑤寄付金収入	20,000	20,000	0	
⑥雑収入	30,416	30,416	0	
当 期 収 入 合 計 (A)	14,053,558	14,048,079	5,479	
前 期 繰 越 収 支 差 額	18,674,003	7,329,648	11,344,355	
収 入 合 計 (B)	32,727,561	21,377,727	11,349,834	
Ⅱ 支 出 の 部				
1 事 業 費				
①「刀林」発行費	933,195	933,195	0	
②総会補助	1,244,648	1,244,648	0	
③刀林賞賞金	700,000	0	700,000	
③学会支援寄付金	2,765,000	2,765,000	0	
事 業 費 計	5,642,843	4,942,843	700,000	
2 管 理 費				
①人件費	2,530,692	2,530,692	0	
②通信連絡費	303,960	303,960	0	
③印刷発送費	334,564	334,564	0	
④会合費	135,263	135,263	0	
⑤慶弔費	300,110	300,110	0	
⑥運営管理費	1,363,450	1,363,450	0	
⑦雑費	373,953	373,953	0	
管 理 費 計	5,341,992	5,341,992	0	
当 期 支 出 合 計 (C)	10,984,835	10,284,835	700,000	
当期収支差額(A)－(C)	3,068,723	3,763,244	△ 694,521	
次期繰越収支差額(B)－(C)	21,742,726	11,092,892	10,649,834	

令和6年度一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会（刀林会）

会計監査報告


(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

令和6年度一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会（刀林会）

収支決算報告書、財産目録に記載された内容及び金額は記載の通り相違ありません。

令和7年5月 14 日

一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会（刀林会）

監事 熊井 浩一郎 

監事 尾原 秀明 

新理事会構成員



理事長

東京医療センター名誉院長

松本 純夫
(52回)



再任

副理事長

こぶし会会長

宮原 保之
(56回)



再任

副理事長

慶應義塾大学医学部
外科学（心臓血管）教授

志水 秀行
(65回)



再任

多摩丘陵病院
名誉院長

島津 元秀
(53回)



再任

那須赤十字病院

小島 正夫
(55回)



再任

多摩丘陵病院
理事長 院長

小澤 壯治
(60回)



再任

東京歯科大学市川総合病院
院長 脳神経外科特任教授

菅 貞郎
(61回)



再任

馬車道慶友クリニック
院長

古梶 清和
(63回)



再任

慶應義塾大学
副学長 常任理事
医学部外科学（一般・消化器）
教授

北川 雄光
(65回)



新任

このたび、刀林会の理事を拝命いたしました脳神経外科の戸田と申します。身に余る光栄に存じます。諸先輩方が築かれた伝統と絆を大切にして、刀林会のさらなる発展のため尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

慶應義塾大学医学部
脳神経外科学教授

戸田 正博(66回)



新任

このたび理事職を拝命いたしました長 泰則(69回)です。慶應義塾関連病院での勤務を経て、2009年より東海大学医学部 心臓血管外科に勤務、現在は主任教授を務めています。慶應外科の発展のため東海大学よりサポートいたします。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

長 泰則(69回)



新任

稲城市立病院
院長

齋藤 淳一(72回)

このたび、刀林会の理事を拝命いたしました、72回生・一般・消化器外科の齋藤淳一です。長年、評議員を務めてまいりましたが、理事に選出されるのは初めてでございます。諸先輩方の伝統を大切にしながら、会員相互の交流を深め、外科学教室のさらなる発展に貢献できるよう努めてまいります。



再任

川崎市立川崎病院
乳腺外科部長

萬谷 京子
(74回相)



再任

慶應義塾大学医学部
外科学（小児）教授

藤野 明浩
(75回)



再任

国立成育医療研究センター
外科診療部長

下島 直樹
(76回)



新任

このたび刀林会理事を拝命いたしました77回生の林田哲でございます。恩師・先輩・同窓の先生方への感謝を胸に、外科学教室のさらなる発展と後進の育成に微力ながら尽力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

林田 哲(77回)



新任

慶應義塾大学医学部
外科学（一般・消化器）

岡林 剛史(79回)

このたび刀林会の理事に推薦いただきました。全ての世代の先生方にとってより大切な組織となるように活動していきたいと思っております。温かいご指導、ご協力をお願い申し上げます。



再任

慶應義塾大学医学部
外科学（呼吸器）教授

朝倉 啓介
(81回)



再任

慶應義塾大学医学部
外科学（一般・消化器）

茂田 浩平
(85回)



新任

慶應義塾大学医学部
外科学（一般・消化器）

松田 諭(87回)

外科学（一般・消化器）87回 松田諭と申します。この度、新たに刀林会の理事としてのお役割を頂き、身に余る光栄と存じております。刀林会の一層の発展に寄与することができまします。ご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



新任

この度刀林会理事を務めさせていただきましたことになりました、92回の蛭川和也と申します。歴史と伝統のある刀林会のさらなる発展のために貢献できますよう精進して参ります。ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い致します。

蛭川 和也(92回)

新任



この度、刀林会の理事を務めさせて頂きます94回生の水野翔大です。伝統ある刀林会に少しでも貢献できるよう努力してまいりたいと思います。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

荻窪病院
水野 翔大（94回）

新任



慶應義塾大学医学部
外科学（一般・消化器）
川本 潤一郎（98回）

この度、理事に就任致しました外科学（一般・消化器）、98回の川本潤一郎と申します。歴史ある刀林会の理事を拝命し、非常に身の引き締まる思いで御座います。至らぬ点も多々あるかと存じますが、精一杯職務を全う致しますので、どうぞ宜しくお願い致します。

監事

新任



山田 好則（53回）

刀林会には長く一会員として所属しておりましたが、この度、理事会監事を拝命いたしました。名譽なことではありますが、同時に責任を重く感じているところです。本会が適切に運営され、これまで以上に発展できるように努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任



慶應義塾大学医学部
外科学（心臓血管）
木村 成卓（79回）

この度、山田好則先生とともに刀林会監事に就任いたしました79回心臓血管外科の木村成卓と申します。若輩者ではございますが刀林会のために尽力する所存です。ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願いいたします。

理事長重任に当たって



理事長
東京医療センター
名誉院長
松本 純夫
（52回）

瑞宝中綬章を受章して

2019年故北島政樹理事長の急逝を受けて副理事長から理事長へ就任してから、2025年度総会で3期目6年が過ぎた。就任早々の2020年から2024年はCOVID-19の大流行のため対面方式の会合が制限されたのは想定外であつた。そのため北川雄光教授主宰の日本外科学会学術集会を始めとして、教室創立100周年行事や刀林会全員集会もWebで開くことを余儀なくされた。しかし悪いことばかりではなく、インターネット技術の進歩普及はWeb会議を当たり前のものにした。若手医師は学会に参加したくても現場に張りつけられて開催地に行けない現実があつたが、すき間時間に参加できる良い社会変革になりました。一方、残念だったのは北島理事長時代に結ばれた延世大学同窓会とのMOUに則った会合は不成立に終わったままです。もう一つは外科専門医制度で基本診療科として認められた脳神経外科研究室から若手の刀林会加入が途絶えたままとなっていたことです。専門領域は別々であっても大教室として集う慶應義塾大学同窓会（刀林会）のメリッ

トが失われたままであつたことでした。しかし新制度施行前から刀林会に加入していたこぶし会会員の多くは退会せずに残ってくれ、2025年から戸田正博教授が理事に就任してくれたことには感謝しています。2025年春に瑞宝中授章を受けることになり、医療人として一つの区切が出来たと個人的には受けとめました。元々新陳代謝を図ることが組織の活性化には大事と信じている方なので、代表理事もこの際に次の方に交代しようと考えているに至り、春の理事会前に心境を理事の面々にメールを送りましたが、私にとつて都合の良い返信はありませんでした。北川教授が2026年春に、その翌年に志水教授が退任予定であり、その退任を見届けて新教授を同窓会で迎えてからの退任の方が穏当で責任を果たしたと言えるのではないかと意見も貰い、理事会でも続投要請がありましたので、もう一期理事長を務める決心をしました。微力ですが健康に留意して同窓会の為に働く所存ですので何卒よろしく申し上げます。

この度、令和7年4月29日発令で瑞宝中綬章の授章が決まり、5月28日に厚生労働省での伝達式および皇居での天皇陛下拝謁の儀式に出席しました。授与基準は公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、重要と認められる職務を果たした者となり、私学出身者としては折々に国立病院に奉職したため叙勲に至ったと感じています。職歴をたどつてお世話になった先生方のお名前を紹介して拙文をまとめたと思います。小生は2025年度で医学部卒業後52年目にあたります。当時の卒業教育は6年制でした。1年間の慶應病院研修では脳神経外科、心臓・呼吸器外科、小児外科、乳腺を含む一般消化器外科を回りました。学園紛争終結直後で下剋上で

は経営健全化、一次から三次までの救急医療対応施設として体制整備、最先端医療提供施設としての充実および医師の意識改革が喫緊の課題でした。電子カルテ機能充実を図り、2008年からはゼロトラストセキュリティ概念を取り入れWebで電子カルテへアクセス可能となりました。院外からも参照サーバーにアクセスできるので学会等で院外においても患者のバイタルサインなどにアクセスできる様になり精神的負担の軽減につながりました。さらに外部の登録医もご自身が紹介された患者に限りですが、紹介後のデータにアクセスできる安心のシステムになりました。9時5時勤務を余儀なくされる家庭を持つ女性医師からも家事が終わった後に患者データにアクセス可能となったことは好評でした。これらの試みはサイバー攻撃を心配する機構本部から運用停止処分となりましたが、勤務医の負担軽減策の一つになる省のデータヘルス改革顧問の辞令を受けた理由となり、今回の授章に繋がったのではと勝手に想像しています。



は経営健全化、一次から三次までの救急医療対応施設として体制整備、最先端医療提供施設としての充実および医師の意識改革が喫緊の課題でした。電子カルテ機能充実を図り、2008年からはゼロトラストセキュリティ概念を取り入れWebで電子カルテへアクセス可能となりました。院外からも参照サーバーにアクセスできるので学会等で院外においても患者のバイタルサインなどにアクセスできる様になり精神的負担の軽減につながりました。さらに外部の登録医もご自身が紹介された患者に限りですが、紹介後のデータにアクセスできる安心のシステムになりました。9時5時勤務を余儀なくされる家庭を持つ女性医師からも家事が終わった後に患者データにアクセス可能となったことは好評でした。これらの試みはサイバー攻撃を心配する機構本部から運用停止処分となりましたが、勤務医の負担軽減策の一つになる省のデータヘルス改革顧問の辞令を受けた理由となり、今回の授章に繋がったのではと勝手に想像しています。

立病院機構本部からの指示

副学長・常任理事を拝命して



慶應義塾大学医学部
外科学（一般・消化器）教授
北川 雄光（65回）

2025年5月、医療分野を統括する慶應義塾副学長および2期目の常任理事を拝命致しました。これまで様々なご支援をくださいました刀林会会員の皆様をはじめとするすべての慶應義塾社中の皆様に感謝の意を表したく存じます。私が担当する医療の分野は慶應に限らず日本全体の傾向ではありますが、大変厳しい状況に直面しております。本塾は最先端の医看薬学の発展に貢献しながら、慶應義塾大学病院において高度で安全な医療を提供しつつ、未来型予防医療や臨床研究推進など独自の分野を展開して経営面においても堅調な運営をしてきましたが、今後の動向は決して楽観できません。慶應義塾全体の事業規模の約半分を占める医療財政の安定的成長は、慶應義塾の恒常的な発展においても不可欠です。医学部においては、理工学部、薬学部と連携して獲得した世界トップレベル研究拠点BioQや全塾的なプロジェクト

クトである地域中核・特色のある研究大学強化促進事業J-PEAKSをはじめとする大型研究活動を推進しながら、医療系三学部合同教育を含む全人的教育体制の充実が図られてきました。これだけ厳しい医療環境の中で、学術的実績を挙げながら医学部・病院ともに過去4年間連続黒字決算を達成できましたのは、天谷雅行前常任理事、金井隆典前医学部長、松本守雄前病院長をはじめ、医学部・病院執行部、信濃町教職員すべての皆様のご尽力の賜物であり、何より教育・研究・診療現場の第一線で働く若手医療者、教職員、研究者の皆様の功績です。これからは若手・中堅教職員の処遇改善と同時に医療DXを駆使した労働環境の整備に注力して参ります。急速な人口減少の中で、中長期的には医療需要が減少していくことが予想される中、さまざまな新規プロジェクトに取り組みながら「慶應の医療圏」を世界へと広げて

参りたいと存じます。近年、研究力低下が課題となっている本邦において、研究者や若手医療者が学術研究、診療能力の向上、慶應義塾ならではの異分野との交流などに安心して没頭できる環境、多彩なキャリアパスを構築し、大学およびその関連施設に優秀な人材が自ら望んで集結する体制を築きたいと考えています。新しい時代に求められる真の幸福のあり方、身体的な健康だけでなく精神的、社会的なウェルビーイングとは何かを見極め、AI技術が浸透した新しい社会を先導するために医療・理工系に留まらず慶應義塾が誇る人文科学・社会科学系の叡智を結集し、持続可能な「慶應医療のグランドデザイン」を皆様とともに描いて参りますので、引き続きご指導ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

教授就任

杏林大学医学部呼吸器・甲状腺外科 教授就任のご報告



橋本 浩平（84回）

2025年4月1日付で、杏林大学医学部呼吸器・甲状腺外科の臨床教授・診療科長に就任いたしました。私は2005年に卒業後、初期臨床研修を経て外科学教室に入局し、小林紘一先生（46回）のご指導のもと、呼吸器外科の門を叩きました。その後、野守裕明先生（58回）のもとで専修医として薫陶を受け、専修医課程を修了した時点でカナダ・トロント大学にリサーチフェローとして留学いたしました。研究フェローを2年間行っただけ、同大学で臨床フェローとして2年間一般胸部外科を、さらに1年間肺移植およびECMOを学びました。帰国後は慶應義塾大学で助教を務めたのち、足利赤十字病院、がん研有明病院を経て、2023年より杏林大学に赴任しております。

このたび、現病院長で呼吸器外科教授の近藤晴彦先生（東京大学出身、ならびに甲状腺外科教授の平野浩一先生（63回・形成外科）の後任として、2025年4月より現職を拝命いたしました。杏林大学病院には、前理事長の松田博青先生（39回）をはじめ、現医学部長の平形明人先生（61回・眼科）、乳腺外科学教授の井本滋先生（64回）、小児外科学教授の浮山越史先生（65回）など、多くの刀林会および三四会の先輩方が活躍されてこられました。私がこのような重責を担う機会を得られたのも、慶應の先輩方が長年にわたり大学に貢献され、築かれてきた信頼の賜物と深く感謝申し上げます。偉大なる諸先輩方に心より敬意を表するとともに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今後は、近藤病院長のもと、杏林大学の現医局員の先生方と力を合わせ杏林大学の発展に尽力する所存です。臨床では、肺癌に対する低侵襲手術（胸腔鏡・ロボット）を中心に、留学時に学んだ肺移植の経験を活かし、肺癌や縦隔腫瘍に対する拡大手術、気道再建や

血液凝固阻止剤

アコアラン®

600国際単位、1800国際単位／バイアル

ACOALAN Injection アンチトロンビン ガンマ(遺伝子組換え) 静注用

(生物由来製品) (処方箋医薬品³⁾) (薬価基準収載)

(注意) 医師等の処方箋により使用すること

※効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報については電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元
協和キリン株式会社
東京都千代田区大手町1-9-2

販売元
**一般社団法人
JB 日本血液製剤機構**
東京都港区芝浦3-1-1

ACO-202410

【文献請求先及び問い合わせ先】
日本血液製剤機構 くすり相談室 〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1 医療関係者向け製品情報サイト <https://www.jbpo.or.jp/med/di/>

生薬には、個性がある。

漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからのあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。

株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/> 資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。
医療関係者の皆様 tel.0120-329-970 患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930 受付時間 9:00～17:30（土・日・祝日は除く） 2021年4月制作 (商)

副学長退任

東京歯科大学副学長を退任して



松井 淳一（58回）

2025年5月末をもって東京歯科大学副学長の任期を終えました。2008年に東歯大市川総合病院外科第六代教授に就任し、2013年から副病院長、2019年から大学副学長、法人常務理事を務めました。東歯大出身や歯学関係以外の副学長は私が初めてでしたが素晴らしい仲間と教職員との温かい支援のお蔭で本当に楽しく思いつ切り勤めることができました。在職中には、東北震災や新型コロナ禍といった災厄もありましたが、全教職員一丸となって果敢な努力で乗り越えることができ、その他多くのことを成し遂げることができました。

慶應との合併、統合について長年熟慮していた腹案を語り、私もその基にある信念を理解し（たつもりになり）、私学第1位慶應義塾と歯学第1位東歯大の合併であれば1+1を2以上にできる大きなポテンシャルが生まれると考え（てしまいい）ました。当時慶應義塾の北川病院長、竹内常任理事、天谷医学部長には大変お世話になりました。この場を借りて心よりお礼を申し上げます。当時の長谷山塾長との面会が叶い、三田での何回もの協議を経て長谷山塾長はじめ慶應義塾理事会、評議員会の承認が得られ2023年の統合を目指す「基本合意書」が2021年1月締結されたのでした。しかし、同年5月慶應義塾塾長が伊藤塾長に交代されて統合スケジュールを一旦見直すこととなり、この統合協議の道筋が決まらないまま私の任期を迎え道半ばで退職することになった次第です。

私は、退職後市川を全て引き払って6月から済生会宇都宮病院で篠崎病院長の下でアドバイザリースタッフとして勤務しております。そこに7月19日朝早く北川慶應義塾副学長から私の携帯電話に電話があり「前日、国際医療福祉大学高木理事長から『市川総合病院が東歯大から国福大に譲渡される』と話があったが、松井はご存じであったのか？」とのことでした。私には全く寝耳に水であり、5月までの東歯大在職中には全くそのような情報を知らされていなかったことをお話ししました。と言うより、井出理事長が私を含めて慶應側に悟られないように秘密裏に市川総合病院の切り離し譲渡を進めたものであり、慶應側や市川総合病院側には一切説明なく、私の退職後のタイミングで国福大側から唐突に明かされたものでした。伊藤塾長や北川副学長はじめ慶應側に変な無礼千万な所業と言わざるを得ません。つい数か月前まで東歯大で精一杯に勤めていた私が退任の挨拶で東歯大のことをこのように書かなければならないことはただ残念です。

17年間、市川総合病院と東京歯科大学を心から愛して一所懸命に働き、全ての教職員のことを大切に思っていたやみませんでした。大きな達成感と満ち満ちた充足感を胸に退職した後、このような後日譚を聞くことになって無念でなりません。「東京歯科大学市川総合病院」の名称が来年4月にどう変わるのか分かりませんが、慶應関係や刀林会の諸兄だけではなく一緒に働いた大切な教職員の皆さんの将来に微力ながら私も心を致して行きたいと思っています。末筆ながらこれまで多くのご支援を賜った刀林会の諸先生方に心よりの感謝を申し上げます。

学会紹介

第53回日本潰瘍学会



吉田 昌（69回相）

CI week 2026（2026年2月20日〜22日熊本城ホール）の中で開催される、第53回日本潰瘍学会の会長を拝命いたしました。日本潰瘍学会は、始まりを1973年に遡る歴史ある学会です。東京慈恵会医科大学第二外科の長尾房大教授が設立時のメンバーでありました。その教室で報告されてきた二重規制学説が、日本潰瘍学会の原点の一つとなっておりま。さらに、2002年には故北島政樹教授が第30回の会長をされています。第53回のテーマを「新たな地平を拓け」としました。これは、私を会長に推薦してくださった、京都薬科大学名誉教授の岡部進先生からいただいた言葉です。この言葉に触発されて、特別企画“Can we find similarities in the wound healing of the skin ulcers?”という国際セッションを設けました。米国Wound Healing SocietyのPresidentのProf. Sundee

KeswaniのVice PresidentのProf. Susan Volk、日本の創傷治癒学会から東京大学の仲上豪二朗教授、東北大学の菅野恵美教授を招き、皮膚潰瘍創傷治癒の最新知見と皮膚細菌叢や細菌の影響について検討する予定です。また、来年は、ハンガリー系カナダ人であるHans Selyeがストレス学説を提唱して90周年であります。Hans Selyeの愛弟子である、私の米国留学先のProf. Sandor Szabo（ハンガリー人を招待）、“Stress is 90 years old”と題した特別講演も企画いたしました。また、近年、外科病棟に入院した潰瘍穿孔例で死亡例が時々ありました。そこで、主題セッションとして「外科病棟の胃・十二指腸潰瘍症例の実情」を設けることとしました。刀林会から練馬総合病院の栗原直人先生、そして慈恵会医科大学から高橋直人先生に座長をお願いしましたところ、集まった9題のなかから8演

題が主題セッションで報告されることとなりました。日本潰瘍学会では、長い歴史の中で、外科・内科・基礎医学のメンバーが徹底的に学術討論を行う場として発展してまいりました。この伝統を次の世代に引き継げるように準備を進めてまいる所存です。本学会に御指導・ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



学会を終えて

第97回日本胃癌学会総会



藤田医科大学

先端ロボット内視鏡手術学講座

主任教授

宇山 一郎（64回相）

第97回日本胃癌学会総会を、2025年3月12日から14日にかけて名古屋コンベンションホールにて主催する貴重な機会を賜りました。本学会は、我が国の胃癌診療に携わる多くの先生方が一堂に会し、知の交流と発展を図る重要な学術集会であり、その総会をお引き受けするにあたり、身の引き締まる思いとともに、名古屋から新たな学術的潮流を発信したいという決意を強くいたしました。メインテーマを「胃癌学におけるデジタルイノベーション」といたしましたのは、近年著しい発展を遂げるAIやロボット支援手術、画像解析技術、デジタルデータの活用が、胃癌診療の質向上に極めて大きな可能性を秘めていると考えたためでございます。これらの技術革新を臨床、研究、教育の場にどのように取り入れ、未来の胃癌学へつなげていくべきかを、国内外の専門家の先生方と深く議論できる場とすることを目指し、準備を進めてまいりました。

総会には2,000名を超える多数の先生方にご参加いただき、応募演題数も900題近くに達しました。会場では、AI活用による診断精度の向上に関する最新報告、ロボティクスの進化を踏まえた手術戦略、さらにはデジタルテクノロジーを用いた教育の新たな試みなど、多岐にわたるご発表が寄せられ、会期を通じて大変活発な議論が交わされました。また、故北島政樹先生が創設された日本「ハンガリー・ポーランド外科学会を、国際医療福祉大学の吉田昌先生のご尽力により同時開催することができ、多くの海外の外科医の先生方にもご参集いただきましたことは、本総会に国際的な広がりを与え、大変意義深い出来事でございます。日本の胃癌診療の現状と進歩を世界へ発信する貴重な機会となり、主催者として喜びに堪えません。

さらに、今回の総会の運営にあたりましては、同門会である刀林会の諸先輩方より、寛大なるご厚志を賜りました。昨今、寄付金を募ることが極めて難しい情勢にございます中、このような温かいご支援は、学会運営の大きな支えとなり、会場設営やプログラム構成の充実にも大きく寄与いたしました。刀林会からのご援助がなければ実現し得なかった取り組みも多く、ここに改めまして深甚なる感謝を申し上げます。本総会を通じて得られた成果を励みとし、今後とも微力ながら胃癌学の発展に寄与すべく、臨床・研究・教育のいずれの領域におきましても、より一層精進してまいります。何卒今後とも、変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第97回日本胃癌学会総会 収支報告書

2025年10月3日

		実数(最終)			
■ 収入		単価	数量	単位	金額
I 参加費収入			2056名		¥38,332,000
1	学会参加費（会員）	15,000	1,230	名	18,450,000
2	学会参加費（非会員）	25,000	577	名	14,425,000
3	海外参加者(早期)	25,000	96	名	2,400,000
3	海外参加者(通常)	30,000	92	名	2,760,000
4	メディカルスタッフ	5,000	30	名	150,000
5	研修医	5,000	27	名	135,000
6	学生	3,000	4	名	12,000
II 懇親会参加料			130名		¥650,000
1	拡大代議員懇親会	5,000	130	名	¥650,000
III 単位手数料				名	¥0
IV 抄録集販売		0	0冊		¥0
V 共催セミナー			18枠		¥44,550,000
1	モーニングセミナーA（※最大2枠）	1,870,000	1	枠	1,870,000
2	モーニングセミナーB（※最大6枠）	1,650,000	2	枠	3,300,000
3	ランチョンセミナーA（※最大2枠）	2,750,000	2	枠	5,500,000
4	ランチョンセミナーB（※最大6枠）	2,420,000	6	枠	14,520,000
5	ランチョンセミナーC（※最大6枠）			枠	0
6	イブニングセミナーA（※最大2枠）	2,420,000	0	枠	0
7	イブニングセミナーB（※最大4枠）	2,200,000	4	枠	8,800,000
8	スポンサードシンポジウムA（※最大2枠）	3,520,000	3	枠	10,560,000
9	スポンサードシンポジウムB（※最大1枠）	2,750,000	0	枠	0
10	スポンサードシンポジウムB（特別料金）			枠	0
VI 展示出展料			13社		¥30,019,000
1	基礎小間出展料	330,000	4	小間	1,320,000
2	スペース小間出展料	275,000		小間	0
3	書籍出展料	16,500	6	本	99,000
4	ホスピタリティルーム（大）※最大3枠	3,850,000	4	枠	15,400,000
5	ホスピタリティルーム（小）※最大1枠	3,300,000	0	枠	0
6	ホスピタリティスペース ※最大2枠	3,300,000	4	枠	13,200,000
7	ホスピタリティスペース2	-	-	-	-
8	ホスピタリティスペース3	-	-	-	-
9	ホスピタリティスペース4	-	-	-	-
VII 広告関係費			3社		¥770,000
1	幕間広告	330,000	1	社	330,000
2	アプリ パナー広告	220,000	1	社	220,000
3	HP パナー広告	220,000	1	社	220,000
VIII 寄附・助成金					¥12,150,000
1	学会本部からの運営補助金	8,500,000	1	式	8,500,000
2	寄付	1,650,000	1	式	1,650,000
3	その他寄付・助成	2,000,000	1	式	2,000,000
IX その他					¥445,724
1	関連会合 会場費	399,025	1	式	399,025
2	利息	46,699	1	式	46,699
	合計				¥126,916,724

■ 支出(別添明細)

		主催者経費	JCS御見積	合計
I 事前準備費		¥1,852,522	¥29,950,686	¥31,803,208
1	事務局人件費	0	9,867,000	9,867,000
2	事務局雑費	0	334,675	334,675
3	接遇業務費	0	2,691,040	2,691,040
4	企業協賛活動業務費	0	1,769,020	1,769,020
5	広報・渉外業務費	0	54,450	54,450
6	制作費	768,950	7,091,535	7,860,485
7	サイドイベント業務費	6,700	820,380	827,080
8	プログラム編成業務費	0	4,242,865	4,242,865
9	事前登録業務費	1,076,872	3,037,826	4,114,698
10	郵送費	0	41,895	41,895
II 当日運営費		¥25,822,948	¥62,614,231	¥88,437,179
1	会場関係費	18,144,957	0	18,144,957
2	招請者関係費	0	17,908,266	17,908,266
3	飲食・会合・行催事関係費	7,149,864	519,900	7,669,764
4	輸送・ツアー関係費	155,520	0	155,520
5	映像機材費	0	30,056,521	30,056,521
6	看板・ポスターパネル関係施工費	0	4,815,074	4,815,074
7	展示会場関係費	0	672,760	672,760
8	設営・撤去（看板・ポスターパネル・展示）	0	1,089,000	1,089,000
9	運搬関係（看板・ポスターパネル・展示）	0	774,400	774,400
10	参加受付自動機利用経費	0	0	0
11	運営要員関係費	0	4,752,275	4,752,275
12	記録関係費	372,607	580,800	953,407
13	同時通訳関係費	0	0	0
14	諸雑費	0	1,445,235	1,445,235
III 事後処理費		¥5,927,237	¥749,100	¥6,676,337
1	事務局人件費	0	616,000	616,000
2	旅費交通費	0	0	0
3	会議費	683,809	0	683,809
4	制作費	0	0	0
5	会計監査費用	3,500,000	133,100	3,633,100
6	その他	1,743,428	0	1,743,428
合計		¥33,602,707	¥93,314,017	¥126,916,724

予備費（実数との差額）	¥-0
-------------	-----

第62回日本小児外科学会学術集会



杏林大学医学部
小児外科教授
浮山 越史 (65回)

このたび、第62回日本小児外科学会学術集会を2025年6月5日(木)から7日(土)にかけて、東京都千代田区一ツ橋の一橋大学一橋講堂にて開催いたしました。杏林大学小児外科は1994年に講座として発足し、30周年を迎えております。当教室にとつては初めての開催となりました。

日本小児外科学会学術集会の開催は、刀林会会員では第17回秋山洋先生、第22回勝俣慶三先生、第38回佐伯守洋先生、第41回今村洋二先生、第44回森川康英先生、第49回上野滋先生、第58回黒田達夫先生に次いで、今回で8人目になります。

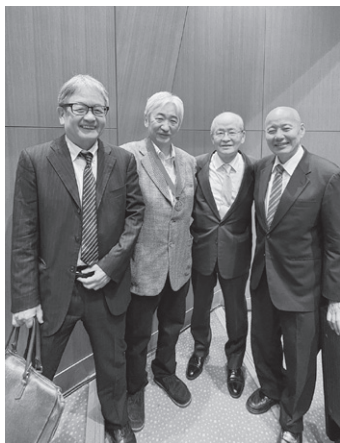
今回のテーマは「天に星、地に花、人に愛」とさせていただきます。この言葉は杏林大学の近くに邸宅跡の公園・記念館がある、武者小路実篤が色紙に揮毫していたものです。「愛」は医療の根幹であり、病気の子どもたちにとって最も必要なものと考えています。副

題として「〜きみの想いを子どもたちのために〜」を掲げ、これからの小児外科医にも子どもたちへの「想い」を胸に小児外科医療に臨んでいただきたいとの願いを込めました。

特別講演は日本の医学界で著名な先生がたに「これからの医学と小児外科」に関してご講演いただきました。参議院議員・66回の古川俊治先生、国際医療福祉大学学長／WHO執行理事・63回の鈴木康裕先生、慶應義塾大学医学部外科科学教授・65回の北川雄光先生、日本医師会常任理事・65回の黒瀬 巖先生、日本小児科学会理事・岡明先生、アステラス製薬株式会社代表取

締役会長・安川健司様です。どのご講演もこれからの日本の医学、小児外科にとって大変有意義なものでした。また、文化公演としてフジテレビのプロデューサー金城綾香さんにご登壇いただき、ドラマ「PICU 小児集中治療室」の作成過程についてお話しいただきました。

約1,000名の皆さまにご参加いただき、各会場とも大変盛況で活気に満ちた学術集会となりました。素晴らしい学術集会を開催できたことを誇りに思うとともに、刀林会をはじめ関係各位の皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



先輩方と



会長挨拶



集合写真

受賞報告

2025年国際肝移植学会賞 (臨床研究部門) を受賞



熊本大学大学院生命科学研究部
小児外科学・移植外科学講座
教授
日比 泰造 (77回)

2025年5月、シンガポールで開催された国際肝移植学会(ILTS: International Liver Transplantation Society)総会において学会賞(臨床研究部門)を受賞する栄誉に浴しました。臓器移植は「20世紀の医学的奇跡のひとつ」と称されます。IL

TSの歴史は1984年に遡り、世界で初めて肝移植を成功させた臓器移植の父・Thomas E. Starzl博士が関連多職種と共に手術・周術期管理を議論する場として立ち上げ、現在は肝移植に関する基礎と臨床全般を網羅する世界最古かつ最

大の学会として知られています。

横須賀米海軍病院インターン修了後、故北島政樹先生ならびに故大上正裕先生のご高配で慶應義塾大学病院、多摩丘陵病院(故今井達郎先生、白部多可史先生)でのフレッシュマン出張、そして国立がん研究センター中央病院でレジデント・チーフとして肝胆膵領域を中心に腫瘍外科を5年間にわたり学びました。2006年より大学に戻り故北島先生、そして北川雄光教授のご高配で一般・消化器外科の胆道班・移植班(当時)に配属していただいたことが私と肝移植の出会いとなりました。島津元秀先生、若林剛先生、田邊稔先生、河地茂行先生、尾原秀明先生、そして小児外科の森川康英先生、星野健先生をはじめとする綺羅星のごとく並ぶ先生方より生体肝移植の手ほどきを受けました。初めて担当したレシ

ピエントが移植後早期グラフト肝不全に陥り、脳死下臓器提供が極端に少ない当時の日本では再移植による救命が叶わず、患者さんにご家族の無念を晴らすべく

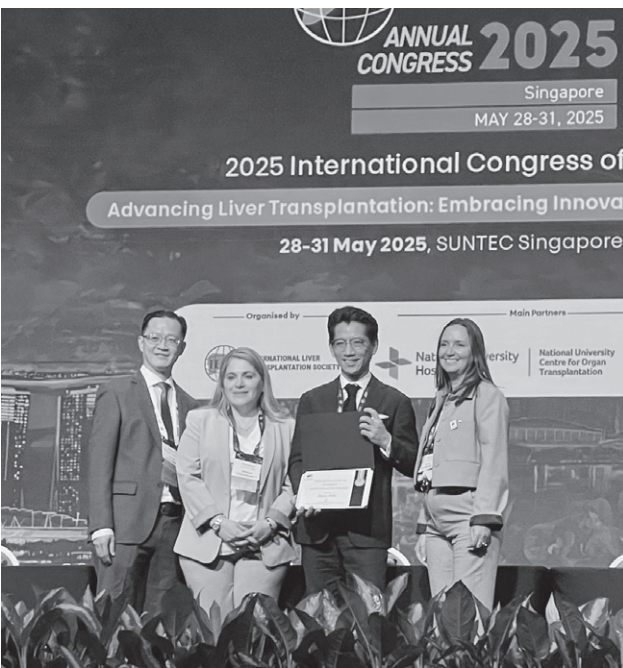
世界最大の移植大国である米国での武者修行を決意しました。おかげさまで北米最大規模のマイアミ大学に臨床フェローとしてマツチし、2010年より2年間で約300件の肝・腎・脾・小腸・多臓器移植手術をStarzl博士の愛弟子のひとりAndreas G. Tzakis教授らのご指導のもと執刀医ました。第一助手として経験し、米国移植外科学会認定医を取得しました。

帰国後は再び大学に戻り肝胆膵外科手術の研鑽をさらに重ね、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医となりました。日本と米国、腫瘍外科と移植外科において世界最高水準の手術修練を受ける幸運に恵まれたことで、腫瘍学と移植医学の融合・transplant oncologyという概念を着想し、2014年に慶應義塾大学から初めて提唱しました。20

19年に初の国際コンセンサス会議をオランダ・ロッテルダムで開催し、2022年には主任研究員として切除不能な肝門部領域胆管癌に対する生体肝移植の本邦での保険収載を目指した全国多施設共同研究(先進医療B)を現在の肝胆膵・移植班トップの阿部雄太先生らと立ち上げています。

肝・胆道領域の悪性腫瘍に対する肝移植の複数のガイドライン策定に加え、かつて移植禁忌とされた最重症患者さんの救命、日本が連綿と築き上げてきた微細解剖の深い理解に基づく精緻な生体ドナー肝切除など、終始一貫して技術革新と病態生理に基づき、患者さんと共に治療可能性の限界に挑み続ける姿勢をご評価いただいたことが、日本人初受賞という身に余る光栄につながりました。

肝移植は代替治療のない、科医をめざし弛まず精進を重ねる誓いの印と受け止めております。最後に、これまで四半世紀あまりの外科医人生において、多大なるご指導を賜りました刀林会の諸先生方、関係者のみなさまに心より厚く御礼申し上げます。



国際肝臓外科学会（ILIS） 2025 Best Video Award 受賞報告



上尾中央総合病院
若林 大雅（91回相）

このたび、ソウルで開催された第5回International Laparoscopic Liver Society (ILIS) World Congressにおいて、私が発表した手術ビデオ「Precision Robotic Glissonian Approach for High-Branching C8 Pedicles in HCC」がBest Video Awardを受賞いたしました。多数の応募ビデオの中

から667名が参加し、18名に選出され、さらに上位2名に残り、最終的に最高賞を頂くことができました。ILISは低侵襲肝切除の国際的発展を牽引する学会であり、今回の第5回大会では第4回国際低侵襲肝切除コンセンサス会議が併催されました。世界56か国

から667名が参加し、179の招待講演と247の一般演題が行われ、低侵襲肝切除、特に近年発展の著しいロボット肝切除の標準化と将来像について活発な議論が交わされました。昨年は京都でSingle Topic Conferenceが開催されており、私は第1回大会から継続して参加してまいりました。



法によつて切除範囲を可視化し、血流支配に沿った精緻な解剖学的切除を行いました。この成果はAnnals of Surgical Oncologyにビデオ論文としても掲載されました。

今回の受賞は、こうしたこれまでの解剖学的知識の醸成と、学術的な伝え方に対する積み重ねが評価された結果だと感じています。これまでご指導くださった北川雄光教授、阿部雄太先生、若林剛先生をはじめ、慶應肝胆膵・移植班の

先生方に心より感謝申し上げます。今後も、日本の精緻な解剖理解と手術手技を分かりやすい形として国内外に発信し、低侵襲外科のさらなる発展に尽力してまいります。

第97回日本胃癌学会総会 優秀演題賞



慶應義塾大学医学部
外科学（一般・消化器）
池田 惇平（98回相）

2025年3月12日から14日にかけて愛知県名古屋市中で開催された第97回日本胃癌学会総会において、「ロボット支援胃切除術におけるAI自動解剖認識モデルの構築」に関して発表し、

優秀演題賞を受賞いたしました。本研究では、AIによる解剖認識サポートにより術中の誤認識による合併症軽減を目指し、AI自動解剖認識モデルの構築に着手を

しました。ロボット支援胃切除術（robotic distal gastrectomy：RDG）における幽門下リンパ節郭清の術中映像を活用し、深層学習を用いて重要臓器（膵臓、横行結腸間膜、右胃大網静

脈など）を自動認識するAIモデルを構築・検証しました。複数施設（慶應義塾大学を含む4施設）から提供された90本の手術動画を

用いて、50本をトレーニング、40本をテストに使用しました。モデルの認識性能はIoU（Intersection over Union）とこのAI modelの推論する臓器の領域と実際の領域がどれだけ重なっているかを示す指標で評価しました。

作成したAIモデルのIoUは右胃大網静脈0.575、膵臓0.624、横行結腸間膜0.618であり、既報ではIoU 0.5ほどで臨床医が有用と判断したという報告がある中、非常に高い精度が示されました。また、4施設の手術動画に適応し検証したところ、いずれの施設の動画でも平均のIoUは0.5から0.7であり、高い精度で施設間の差もわずかであることが

明らかになりました。外部的妥当性が示されました。さらに、このAIモデルによる解剖認識サポートが外科医の臓器認識精度に与える影響を検討すべく、当院一般・消化器外科レジデント12名を対象に術中動画に対してAIの適応がある動画とない動画を見せ、質問形式で正答率を比較し精度を評価しました。その結果、AI支援によつて臓器の輪郭の認識において有意な精度向上が認められ、AIナビゲーションの臨床有用性が示唆されました。

当日は多くの先生方に発表をご聴講いただき、非常に活発な議論が行われました。本演題が数多くの優れ

た研究の中から優秀演題賞に選出されたことは、大変光栄であり、今後の研究活動の大きな励みとなります。このような貴重な機会をいただいたのも、日頃よりご指導いただいたおります北川雄光教授、川久保博文准教授、竹内優志助教ならびに、慶應関連施設の諸先生方のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。本受賞を励みに、より一層精進して参ります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



病院紹介

上尾中央総合病院での
10年を振り返って



院長補佐・肝胆膵疾患
先進治療センター長・
外科科長
若林 剛(61回)

2015年4月に盛岡から赴任し、上尾中央総合病院で勤務を始めてから10年が経ちました。渡邊昌彦教授(58回)からのご紹介を受け、中村康彦理事長、徳永英吉院長のもと、当院にて地域医療のさらなる発展と外科医療の質向上に尽力してまいりました。

数1日平均1500人の大病院です。赴任時に院長から私に与えられたタスクは、「外科医療の質を高め、職員が安心して手術を受けられる環境を作ること」でした。当時は北里大学からの派遣医師と当院採用医師が混在した自由な外科チーム体制でしたが、その中で、北里大学の筒井敦子先生(平成14年卒)を下部消化管のチーフに、北川雄光教授(65回)ご厚意により岡本信彦先生(76回)を上部消化管のチーフに迎え、チーム体制を整えました。



左から私、岡本先生、大雅先生、中尾先生、高橋先生、石井先生

肝胆膵チームも北里大学と慶應義塾大学から定期的な修練医を派遣いただき、これまでに高度技能専門医を4人と技術認定医を7人育てることができました。年々、手術症例数は増加して来ており、2024年度は上部62例、下部186例、肝胆膵104例、ヘルニア修復術287例、胆嚢摘出253例、虫垂切除121例、肺切除93例、穿孔性腹膜炎手術50例、合計156例であり、うち87%にあたる1003例は低侵襲手術でした。故大上正裕先生(58回)にラパコレを習った自分は、当院でこれだけ低侵襲手術を実践している外科チームが作れたことを大変嬉しく思いチームの皆に感謝しております。特に肝胆膵ロボット手術件数は、2017年2月にロボット支援下膵頭十二指腸切除を開始して以来、この10月までに308例(肝臓128例、膵臓180例)になりました。

部長)、若林大雅先生(91回相当、医長)、中尾篤志先生(96回、医員)、高橋優太先生(101回相当、専攻医)と年々増えて来ており、来春からは当院初期研修医の石井賢武先生(長崎大学2024年卒)が呼吸器外科に入局する予定です。これまでも子島大輝先生(99回相当)、高橋優太先生、中原英里先生(102回相当)と当院の初期研修医卒業生が刀林会に入会いただいております。慶應義塾大学関連の豊富な症例数を活かして外科医療の将来を担っていただく外科医を育てていきたいと思っています。

国立がん研究センター東病院は、千葉県柏の葉キャンパスに位置しております。つくばエクスプレス(TX)で秋葉原から約30分、東京都心からも通勤圏内にあるこの地域は、大学や研究機関が集まる学術都市として発展を続けています。当院はその一角にあり、駅からやや離れた静かな環境(バスで約10分)にあります。周囲には緑が多く、カワセミが姿を見せることもある穏やかな場所です。

東病院は1992年、中央病院(築地)に続く第二の拠点として開設されました。中央病院が全国から患者を受け入れる臨床の中心であるのに対し、東病院は「研究と臨床の融合」を理念に掲げ、臨床現場と研究部門が一体となつて新しい医療を生み出すことを目的としております。開設当初から研究所を併設し、基礎研究から臨床応用、実用化までを一貫して行う体制を整え、AIやロボット支援下手術、ゲノム医療など最先端のがん医療を積極的に導入しております。

2017年には「次世代外科・内視鏡治療開発センター(NEXT)」を開設し、低侵襲手術の技術開発と教育を推進しております。放射線治療、化学療法、緩和ケア、看護、リハビリテーションなど、多職種が連携して患者一人ひとりに最適な治療を提供するチーム医療も当院の大きな特徴です。さらに、臨床研究や治験を推進する体制も整っており、研究成果を迅速に臨床に還元する「トランスレーショナルリサーチ」の拠点としての役割も担っております。

近年では、国内外の医療機関や大学との連携を強化しており、欧米やアジアをはじめとする国際共同研究・教育交流も活発に展開しております。特にがんゲノム医療分野では、全国規模の産学連携プラットフォーム「SCRUNI-Japan(スクラム・ジャパン)」の中核施設として、多様ながん種を対象とした臨床研究を推進しております。外科領域では、海外施設との技術交流や術式標準化にも取り組み、内視鏡・ロボット手術の教育拠点として発展を続けております。また、院内では若手医師の臨床・研究能力を育む教育プログラムを充実させ、次世代のがん専門医育成にも力を注いでおります。

当院には大西達也(82回)、由良昌大(89回)、綿貫瑠璃奈(92回)、辻貴之(95回)、古迫理彩(101回相当)の5名の刀林会所属医師が在籍しており、それぞれの専門分野で臨床・教育・研究に携わっております。慶應外科で培われた経験を礎に、東病院の理念である「がん医療の革新」に寄与しつつ、日々の診療と後進育成にあつております。



大西 達也(82回)

国立がん研究センター東病院



令和6年度「刀林賞」 選考結果報告



刀林賞選考委員会 委員長
医療法人社団幸隆会
多摩丘陵病院 名誉院長
島津 元秀（53回）

令和6年度刀林賞には私が選考委員長を拝命した令和元年以来最多の7篇の論文の応募がありました。今回の刀林賞選考委員会は令和7年2月27日にweb形式で開催し、事前に委員全員から詳細な査読評価を頂き、その集計結果を基に審議を行いました。

いずれの論文も優秀で選考に苦慮しましたが、最高評価点を得た水野翔大君（94回）の論文「Stratification of Stage II colon cancer using Recurrence Prediction Value: A Multi-international retrospective study」(Annals of Surgery 2024 掲載)が刀林賞候補として挙がりました。第2著者の「contributed equally to this study」という注釈があり、貢献度を差し引いて評価する必要があるのではという意見も出されましたが、応募規則にはその点の記載はなく、最終的に全会一致で刀林賞に推薦されました。本論文は慶應および関連病院7施設の共同研究で作成したpStage II結腸癌に対するRecurrence

Prediction Value (RPV)の妥当性を海外施設のvalidation dataを用いて検証し、従来のガイドラインに比べてより正確に再発リスクの高い患者を抽出でき、補助化学療法の適応選択にも有用なバイオマーカーになりうることを示し、臨床的に極めて意義のある研究であると評価されました。

刀林奨励賞についてはいずれも質の高い論文が多い中、慎重審議の結果、齋藤慶幸君（89回）と竹村裕介君（91回）の2論文が推薦されました。

齋藤論文「Lobectomy vs Total Thyroidectomy with Ipsilateral Lateral Neck Dissection for N1b Intermediate-Risk Papillary Thyroid Carcinoma」(JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgery 2024 掲載)は側頸部リンパ節転移(cN1b)を伴う中間リスク乳頭状甲状腺癌の術式について、甲状腺全摘と葉切除術を比較し、より低侵襲である葉切除が長期予後および再発に關して全摘と同等の治療効

果を提供することを示した初めての研究であり、甲状腺癌治療ガイドラインの改訂に寄与する可能性がります。

竹村論文「Improved survival of pediatric deceased donor liver transplantation recipients after introduction of the pediatric prioritization system: Analysis of data from a Japanese national survey」(Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 2024 掲載)は本邦における小児脳死肝移植の全容を初めて明らかにしただけでなく、臓器提供数が極めて少ない日本において、小児優先制度が効果的に機能している現状を示しました。筆者らは本邦の脳死肝移植のデータベースを作成し、ドナーおよびレシピエントのデータを統一・可視化した意義は極めて大きいと考えられます。

今回の選考結果は令和7年3月26日の理事会および6月7日の令和6年度定時社員総会での決議を経て、最終的に承認されました。なお、一連の研究という理由で複数編の論文で応募した方がいましたが、「応募は1人1編とする」という規定があるので1編のみを対象として審議しました。今後とも刀林賞規則および募集要項を遵守した上で、積極的に応募して頂きたいと思ひます。

刀林賞を受賞して

この度は、刀林会刀林賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。日頃より御指導いただきありがとうございます北川雄光教授、岡林剛史先生、本研究の御指導を賜りました茂田浩平先生およびデータ収集にご尽力頂きました関連施設の先生方に厚く御礼申し上げます。また、このような歴史ある賞に選出をいただきましたこと、刀林会の先生方に深く御礼申し上げます。

この度私が受賞いたしました論文は、腸班が中心となり、関連施設と協力して作成した多施設共同データベースを教師データとして結腸癌pStage IIの各ハイスク因子に重みづけをしたRecurrence Prediction Value (RPV)という予後予測因子スコアを作成しました。さらにそのスコアの妥当性を「米国Massachusetts General Hospital」及び「エルダンKing Hussein Cancer Center」のデータベースを検証データとして検討したものにります。教師データにおいて2010年から

2020年の間に根治切除を受けたpStage IIの患者で補助化学療法を受けていない739例を対象とし、RPV low群 (n=564) とhigh群 (n=175) に分けて検討しました。多変量解析の結果、RPVは無再発生存期間 (Recurrence free survival: RFS) および全生存期間 (Overall survival: OS) の独立した予後予測因子であることがわかりました (共に $P<0.001$)。さらにこのRPVを教師データとまったく異なるデータである検証データに当てはめ、2010年から2020年の間に根治切除を受けたpStage IIの患者で補助化学療法を受けていない467例を対象に、教師データと同じカットオフ値にRPV low群 (n=420) とhigh群 (n=47) に分けて検討しました。多変量解析の結果、RPVはRFS、およびOSの独立した予後予測因子でありました (共に $P<0.001$)。以上のようにRPVは国籍、人種を問わず、全世界的にpStage II結腸癌の予後の層

別化において有効なバイオマーカーとなることを報告いたしました。ASCO、ESMO、NCCNなどの各ガイドラインではpStage II結腸癌において、各ガイドラインで定めているハイスク因子が1個でも陽性であれば、high risk stage IIに分類され、術後補助化学療法が推奨されております。しかし各ガイドラインで定めているハイスク因子が異なることや、high risk stage IIに分類される患者は80%程度になるために、ハイスク患者の抽出の有用性としては疑問の余地がありました。今回我々が作成しましたRPVはhigh群に分類される患者は20%程度であり、より再発リスクの高い患者の抽出に優れていると言えます。

この度の受賞を励みとさせていただきます、なお一層、臨床および研究活動に精進して参ります。今後とも指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



荻窪病院
水野 翔大（94回）



刀林奨励賞を受賞して

このたびは荣誉ある刀林奨励賞を賜り、身に余る光荣に存じます。私は大学で一般・消化器外科の研鑽を積んだ後、チーフ出張を経て米国ボストンの甲状腺専門施設に留学し、現在は刀

林会のご縁をいただき、故伊藤國彦先生が院長を務められた伊藤病院で内分泌外科医として勤務しております。

大学時代には、解剖学的にも甲状腺に近い食道手術

の受賞につながったものと感じております。日頃よりご指導を賜っている北川雄光教授、川久保博文先生、高見博先生（伊藤病院学術顧問）をはじめ、刀林会の諸先生方に心より御礼申し

上げます。受賞対象となった論文は、JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgeryに掲載された「Lobectomy vs Total Thyroidectomy With Ipsilateral Lateral Neck Dissection for N1b Intermediate-Risk Papillary Thyroid Carcinoma」です。同側頸部リンパ節転移を伴う中リスク甲状腺乳頭癌において、甲状腺全摘術（拡大手術）と葉切除（縮小手術）のいずれがより適切なかを検討した研究です。解析の結果、両群の長期成績に差がないことを初めて明らかにし、患者さんのQOL向上と個別化治療の重要性を示すことができました。

今後、日本の質の高いデータを世界へ発信し、甲状腺・副甲状腺外科という分野の発展に貢献できるよう努力を続けてまいります。甲狀腺・副甲狀腺に関するお悩みのことがありましたら、ぜひお声掛けください。このたびの受賞は、支えて



伊藤病院
齋藤 慶幸（89回）



くださった多くの先生方のお力添えの賜物です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

刀林奨励賞を受賞して

この度、大変荣誉ある刀林奨励賞を拝受し大変光荣に存じます。私は篠田昌宏先生（現・国際医療福祉大学消化器外科）のご指導の下、2019年より、日本における脳死肝移植の全国データを統合し、脳死ドナーおよびレシピエント双方の情報を網羅的に解析した日本肝移植学会とのプロ

ジェクト研究を行っており、成人例・破棄肝（移植に用いられなかったグラフト）・小児例の三領域に分けて解析を行ってきました。成人例の解析では脳死肝移植後の予後予測モデルの確立（Takemura Y, Shinoda M, et al. Ann Gastroenterol Surg, 2022）、破棄肝の検討では脂肪肝ドナーの有効

利用を通じた脳死ドナープール拡大に関する知見（Takemura Y, Shinoda M, et al. Ann Gastroenterol Surg, 2023）をいれまで発表してきました。そして本研究では、2021年までに行われた全小児脳死肝移植例を解析し、2018年11月に導入された小児優先制度の効果を主に調査しま



さいたま市立病院
竹村 裕介（91回）

した。小児ドナーから小児レシピエントへの臓器分配が有意に増加し、小児脳死肝移植希望者の待機中死亡がゼロとなり、移植後成績も極めて良好となるなど、制度導入後の小児脳死肝移植医療の量的、質的な向上を明確に示しました。（Takemura Y, Shinoda M, et al. J Hepato-Biliary-Pancreato Sci, 2024）今

回の『小児脳死肝移植における小児優先制度導入前後の成績変化に関する全国研究』についてご評価をいただき本賞を拝受いたしました。

この研究プロジェクトを通じて特筆すべき点としては日本臓器移植ネットワーク（JOT）においてこれまで紙媒体として長きにわたり保管されてきたドナーデータを十数回にわたりレジデントの先生方の協力もいただきながら現地で収集し、日本肝移植学会のレシピエントデータと統合することで、わが国初の脳死肝移植データベースを構築したと同時に、本邦における移植レジストリの脆弱性を明らかにした点になります。その課題を発端として、JOTと学会が協働する新たな臓器横断的レジストリ

事業（TRACER: Transplant Central Registry）の構築が進められ、私自身JOTに出向させていただいた際に中心的に開発に携わらせていただき、日本の移植医療データ基盤の再整備に寄与する成果を上げることができました。この事業により今後わが国における移植医療のエビデンスの創成と透明性の強化を通じ移植医療の持続的発展に資する重要な第一歩を踏み出すことが出来ました。

小児肝移植が専門ではない我々が本研究を遂行できましたのは、慶應義塾大学医学部外科教室 北川雄光教授、尾原秀明准教授、北郷実先生、長谷川康先生、国際医療福祉大学 篠田昌宏教授、ご協力いただいた慶大外科医局員の先生方をはじめ、日本移植学会前理事長 長江川裕人先生、国立成育



医療研究センター 笠原群生先生等多くの学外の先生方の多大なるご指導とご支援の賜物と存じます。この場をお借りして深く感謝申し上げます。今後も肝胆膵・移植外科医としての研鑽と、

臨床研究を続けながら、より多くの肝不全患者の救命に貢献できるよう、一層精進してまいりますので今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

留学を終えて



静岡県立静岡がんセンター
小澤 広輝（91回相）

私は2023年2月より約2年半、米国ボストンにあるDepartment of Medical Oncology, Dana-Farber Cancer Institute, Harvard Medical School, Kufe Labに留学いたしました。本研究室は、大阪大学・

九州大学外科より長年にわたり多くの留学生を受け入れており、今回、前東海大学医学部長・森正樹教授のご支援のもと、慶應義塾大学外科学教室から私の留学の機会をいただきました。

教授は、約40年前に乳がん腫瘍マーカーであるMUC1（ムチン蛋白の一種）／CA15-3を同定された研究者であり、以来MUC1とがんの分子機構との関連を研究されています。80歳を超えられた今も、毎週土曜日

にはボストンTatte Bakeryのパンとフルーツカップを食べながら行うラボミーティングを開催し、休日や夜間でも思いついたアイデアを次々とメールで送ってこられるなど、非常にエネルギッシュな姿勢に刺激を

受けました。Kufe教授から「Chasing dream is fun. Keep discovering!」と言われ続けたことは強く心に残っております。

研究面では、EBV関連胃がん、膵神経内分泌腫瘍、膵管腺がんの3種類の消化器がんにおけるMUC1の関与（発がん・悪性化機構）を中心に、主として細胞株を用いたwet実験を行いました。Dana-Farber Cancer InstituteのNew Medical Areaには世界有数の研究機関やビッグラボが集まっており、共同研究や技術相談のハードルが非常に低く、私のプロジェクトも多くの共同研究者との協力のもとで完成させることができました。ポスドクの多くは英語を母国語としない研究者

であり、訛りのある英語で意見交換を重ねる中で、「とにかく発言する姿勢」を身につけることができたのは大きな経験でした。また、MUC1の研究助成を受けていたため、細胞株・薬剤・ペクターなどの研究材料を全米の研究機関からネットワーク経由で迅速に入手できる環境は、まさにアメリカならではのと感じました。

生活面では、ボストンには日本人留学生・研究者が多く、生活や仕事に関する情報交換を通じて家族ぐるみの交流も生まれ、一緒にバケーションに行くこともあり、帰国後も付き合いの続く「第二の家族」とも言える関係が築けたのは、留学生生活の大きな財産です。極端な円安の中で生活費を

やり繰りするために、教会での食料配給に並んだことも、今では貴重な思い出となっています。妻と生後6か月の長男を連れての渡米は大きな挑戦でしたが、アメリカからしい季節行事（特に独立記念日、Halloween、Thanksgiving、Christmas）を楽しむながら、家族ともども充実した時間を過ごすことができました。

最後になりましたが、留学に際しましてご高配を賜りました北川雄光教授、尾原秀明先生、川久保博文先生、関連病院の先生方、ならびに刀林会の皆様にご心より御礼申し上げます。また、三橋記念国際交流基金留学助成をいただきましたことに、重ねて深く感謝申し上げます。

地域便り

「多摩地域」と変換されました ――立川より――



こぶし脳神経クリニック
松山 眞千（65回）

1999年5月に米国留学から帰国し国家公務員共済組合連合会立川病院（以下、立川病院）に着任しました。以来四半世紀を立川で働いております。同院を2003年春に退職し立川

市内の介護老人施設へ転職し、2008年に立川駅南口から徒歩5分の場所に、現在のこぶし脳神経クリニックを開業いたしました。住居も府中市、国分寺市を経て、昨年に立川へ転居い

たしました。クリニック名は立川市の花が「こぶし」であることから命名しましたが、脳神経外科同窓会が「こぶし会」であることも無関係ではありません。ちなみにカラオ

ケで演歌を歌うことが時々ありますが小節（こぶし）はあまりきかせません。立川は多摩地域の中で最も活気のある街のひとつです。最近では立飛ホールディングスがホテル事業・商業

施設営業、文化・スポーツ（大相撲および各種スポーツ興行、プロバスケットボール運営など）に力を入れています。北口には広大な国営昭和記念公園もあり、ずっと住み続けたいと思っております。

市内の基幹病院としては、立川病院以外に災害医療センター、立川相互病院があり、さらに川野病院、立川中央病院を加えた5病院がある上に、近隣には都立多摩総合医療センターおよび都立小児総合医療センター、日野市立病院、東海大学八王子病院、公立福生病院があり、病診連携は充実しております。

近隣の刀林会員の先生方には公私ともに大変お世話になっております。「公」の部分については上述以外に診診連携でも多大なご支援を

ため休催しております。2023年5月にCOVID-19は5類に変更されましたが、現在も診療中はスタッフ、患者さん方にマスク着用をお願いしている状況です。

そのため、お飲み物等を提供しての催しはできないと判断しており、世の中が十分落ち着いたら再開したいと思っております。

本稿の表題について簡単に記します。つい先日、「田町行きのバス」と入力しようとしたら「多摩地域のバス」と変換されました。多摩エリア暮らしも長くなつたものです。

末筆となりましたが、刀林会員の先生方の益々のご健勝とご活躍をお祈りしております。



2025年「恙無会」(つつがないかい、旧食研外科研究室同窓会) 報告

幹事 丸山 圭一(41回)
担当 吉野 肇一(44回)

はじめに

若い刀林会会員のために、かつて存在した「食研外科研究室」を短く紹介します。外苑東通りに面した現在の信濃町煉瓦館の場所に食養研究所が1995年(平成7年)まであり、その1階(半地下とも言える)に食研外科研究室がありました。戦後間もない1956年(昭和31年)に外科学教室で最初の研究室として創設され、研究対象は胃、肝胆膵、乳腺、感染症、化学療法、消化管内視鏡などでした。1973年(昭和48年)に慶大外科の研究グループは臓器別と機能別に改変され、「食研外科研究室」は解散しました。ですから同窓会メンバーで最も若いのが46回生です。毎年5月に「同窓会・恙無会」を開催してきました。

今年の「恙無会・昼食会」は2025年5月23日、恒例となった新宿駅西口・京王プラザホテル内の中華料理店「南園」で、昨年より2名少ない13名(会員7名、会員夫人4名、研究室助手

など2名)が参加し、丸山幹事の司会で開催されました。この1年間に逝去された関根勉弍君(29回)、田中建彦君(33回)へ黙祷が捧げられました。参加者中、最長老の大槻道夫君(32回)の開会の乾杯に続き、庶務報告・会計報告が行われま

とおりです。リニック閉院、登山ができない、欠席 工藤学而(44回)膝を痛め、岐阜県飛騨から上京できない 田中豊治(46回)週4日病院勤務している。欠席します

続いて出席者から次のような近況報告がありました。 武石澄夫(展代30回と輝夫31回との長男)父と母の法要を営む、仕事順調 大槻道夫(32回)長野県蓼科で開業、93歳になりますが頑張っています 船曳孝彦(40回)弁膜症と間質性肺炎を克服し、登山、ゴルフ、スキーを 丸山圭一(41回)医療相談をしています。スキー、ドライブ旅行など 秋里和夫(44回)診療所が休めず、温泉、ドライブなどご無沙汰 松岡宏彰(44回)診療所



前列左より、大槻由美子(大槻夫人)、丸山和紀子(丸山夫人)、鈴木保江(故鈴木卓二君夫人)、大槻道夫(32回)、船曳愛子(船曳夫人)、松岡滋美(松岡夫人)
後列左より、丸山圭一(41回)、松岡宏章(44回)、秋里和夫(44回)、船曳孝彦(41回)、本橋五十路、吉野肇一(44回)、武石澄夫(故武石夫妻長男)

提言

卒後五十年以上の会員枠からの理事数を、現在の一名から二名へ

これは、多くの高齢会員からの要望もあり、本年6月の社員総会（本会の最高議決機関）で私が提案したのですが、準備不足などで、残念ながら否決されてしまいました。

しかし、社員総会は社員である評議員のみによるもので、広く一般の会員に情報が行われないので本稿を作りました。読者におかれましては、まず本文をお読みになった後に図をご覧ください。

この提案を行った理由を次に述べます。

一 理事一名あたりの会員数の著しいアンバランス（連絡可能者176名）から一名となっており、50年未満では65から100名の会員から一名で、一票の格差が平均で2.3倍、最大で3倍弱となっている。本会の目的は、定款3条（目的）の冒頭に掲げられているとおり「会員相互の親睦」であり、長年にわたって本会を支えてきた高齢会員がこのようにネガティブな格差を受けるべきではない。

二 このルールは、私が入局した六十年前から不変であるが、その間に健康寿命が著明に延長している。

三 80歳以上の会員には会費免除がなされているが、定款には「会員としての権利はこれを保証する（第8条）」とある。なお、80歳以下でも卒後50年以上の会員が相当数、存在する。（53名）

四 同窓会組織では歴史が、他の組織よりも重要視されることから、高齢会員の役割は重い。

五 学術集会開催にかかわる募金活動で、卒後50年以上会員の協力状況は、他枠と変わらない。これは、私の長年にわたる本会役員（理事長、理事）の経験から得た知識です。

今後、この件に関してさらなる検討をいただきたいと考えるとともに、広く意見を頂戴したいです（kyoshino@kxd.biglobe.ne.jp）。さて、私も80歳代後半に

評議員 吉野 肇一（44回）

一提案一

卒後50年以上の会員枠からの理事数を、現在の1名から2名に

提案理由

- 理事1名あたりの会員数一現況（2025年5月）－
卒後50年以上 176名（連絡の取れる会員）＊
〃 未満 65～100名（＊の半分以上、平均80.1名）
- 現在のルールは私の入局した60年前から不変で、その間に健康寿命が著明に延長している。
- 80歳以上の会員には会費免除がなされているが、定款には「会員としての権利はこれを保証する」とある（第8条）。
- 同窓会組織では歴史が、他の組織よりも重要視される⇒高齢会員の重要性
- 各種募金活動で、卒後50年以上会員の協力状況は、他枠と変わらない（私見）。

格差が平均で2.3倍
(1.9～2.8倍)

なでしこ外科医



杏林大学医学部
小児外科

吉田 史子
(73回相)

このたびは、刀林新聞「なでしこ外科医」への寄稿という貴重な機会をいただき、恐縮しております。毎回、新聞で諸先輩や若い先生方のご活躍を読み、身が引き締まる思いがしています。

私は杏林大学卒業後、初期研修のち、浦和市立病院（現さいたま市立病院）で再び初期研修医、さらに専修医として学び、大学に帰室、都立清瀬小児病院（現東京都立小児医療センター）を経て、さいたま市立病院で15年間勤務いたしました。



さいたま市立病院
小児外科

入江 理絵
(86回相)

この度は、刀林新聞「なでしこ外科医」への寄稿という貴重な機会を与えてくださり誠にありがとうございます。86回相当の入江理絵と申します。2009年に富山大学医学部を卒業後、2011年に昭和大学医学部外科学講座小児外科学部門に入局いたしました。大学院を卒業し、結婚・出産

ていただきました。市立病院へ再び勤務するにあたり刀林会へ入会を勧めてくださいました森川前教授も大変お世話になりました。中間管理職の辛さについて相談させていただいた黒田前教授には、きちんとお礼が言えないままのが心残りです。

大学では診察の基本、マナーに始まり、学会発表のスライド作りの一言一句まで、教えていただき、間違いなく医師人生の核が形成されました。そして、たくさんの方の症例、目から鱗の日々を過ごし、今でも続く人間関係を築けたのは小児病院出張のおかげです。市立病院では、遠藤先生から入院患者を最低でも1日1回笑顔にするという教えを守ろう心がけ、中野先生のもとでは、たくさんの方の後輩先生方と一緒に手術をする機会を得たこと、大人数の外来患者の診療を間近でみて感じたことは大きな財産になりました。

患者さんから女性医師を指名されることは珍しくありません。女性医師であるからこその必要とされることもあり、ありがたく感じています。

また、現在の職場は病院に保育園が併設しているため、非常に働きやすい環境です。さらに子供が体調不良であっても、職場に預けることが可能な場合が多く、安心して勤務することができます。我が家では夫も分担して育児をおこなっておりありますが、やはり子供の急な発病に対する対応は難しいため、現在もこのシステムには非常に助けられています。急にお休みをいただくと

帰室報告



慶應義塾大学医学部
外科学（一般・消化器）
石井 政嗣（87回相）

2025年10月から北川雄光教授のご高配により帰室致しました87回生相当、肝胆膵・移植班の石井政嗣と申します。

2008年に東京医科大学医学部を卒業し、川崎市立井田病院で初期臨床研修、外科学教室に入局し、専修医として川崎市立井田病院、埼玉社会保険病院に勤めました。2012年に大学レジデントとして帰室し、肝胆膵・移植班に所属致しました。大学レジデントとして従事する一方でがんプロフェッショナルコースの大学院に所属し、板野理先生にご指導頂き、肝線維化の臨床研究を進め、学位を取得しました。2016年からポストチーフとして伊勢原協同病院で2年間、肝胆膵だけでなく一般・消化器外科として消化器全部の手術を担当し、数多くの手術を行いました。その後2018年より公立福生病院で2年間はほぼ全例の消化器手術を担当し、数多くの経験を積みました。2020年より熊本大学小児・移植外科で1年間、肝移植の手術に従事しました。熊本大

学では4例のドナー手術やレシピエントの胆管吻合を術者として行わせて頂き、大変貴重な経験となりました。2021年4月より栃木県立がんセンターで4年半、肝胆膵の高度技能手術に従事させて頂きました。大先輩である尾形佳郎先生に基礎的なことから再度みっちり教えて頂きました。高度技能医を受けるに当たり、候補になるビデオと一緒に全部見て下さり、一つ一つにコメントを頂きましたことは私の財産だと思えます。また、富川盛啓先生、三原規奨先生には手術の細かい戦略や考え方を教わり、肝胆膵外科医として成長することが出来ました。今回、慶應義塾大学病院に帰室させて頂き、肝胆膵外科学会の高度技能医のビデオ審査に合格することを命題にしております。

最後になりますが、帰室する機会をくださいました北川雄光教授、尾原秀明先生、阿部雄太先生、関連病院の先生方、慶應義塾大学外科学教室、刀林会の皆様、心よりお礼申し上げます。



慶應義塾大学医学部
外科学（一般・消化器）
三島 江平（89回）

このたび、北川雄光教授のご高配を賜り、2025年7月に帰室いたしました、89回生、肝胆膵・移植班の三島江平と申します。国内外の関連施設での研鑽を経て、再び母校の地に帰ることができ、大変光栄に存じます。

2010年に慶應義塾大学医学部を卒業後、済生会宇都宮病院にて2年間の初期臨床研修を行い、2012年より外科学教室に入局いたしました。その後、栃木医療センター、共済立川病院でのレジデント出張を経て、2014年に大学病院へ帰室し、肝胆膵・移植手術を学ぶとともに、板野理先生のご指導のもと、免疫不全ブタを用いた肝細胞癌ゼノグラフト作製実験にも取り組みました。2017年からは国際親善総合病院にポストチーフとして出張し、安藤暢敏先生、佐藤道夫先生、富田眞人先生、宮田量平先生のご高配のもと、肝胆膵・胃・大腸外科手術の研鑽を積み、腹腔鏡下肝切除術の導入にも携わりました。2019年

合病院では、若林剛先生のご指導のもと、ロボット支援下膵頭十二指腸切除・膵体尾部切除、腹腔鏡下解剖学的肝切除を中心とした肝胆膵高難度手術を多数執刀し、肝胆膵外科学会高度技能専門医、内視鏡外科学会技術認定医、ならびにロボット膵切除プロクター資格を取得しました。

2022年9月からは、仏・IRCAD Franceにて2年間リサーチフェローとして在籍し、Jacques Marescaux教授のご指導のもと、ブタ虚血モデルを用いたSSOP (Single Snapshot Imaging of Optical Properties) 技術の有用性に関する研究に従事いたしました。また、鏡視下手術教育プログラムにおいては、世界各国から集う外科医への技術指導にも携わりました。

現在は、ロボット支援下膵切除・肝切除や、イメージガイド手術の標準化を推進しつつ、国内外の多施設共同研究や若手外科医の教育にも継続的に取り組んでおります。今後は、慶應の伝統を継承しつつ、最先端技術との融合を図り、外科学の発展に微力ながら貢献してまいりたいと存じます。

何卒、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

この度、北川雄光先生のご高配を賜り、2025年10月より帰室をさせて頂きました、上部消化管班の松井一晃（93回生）と申します。私は栃木県での初期臨床研修を修了した後、2016年に母校である慶應義塾大学の外科学教室へ入局を致しました。外科専修医として東京都済生会中央病院、東京歯科大学市川総合病院で研鑽を積ませて頂き、2018年にレジデントとして帰室すると同時に、大学院（がんプロフェッショナル養成コース）への進学

の機会を頂きました。研究の分野では、特に食道癌領域において、術後早期の筋肉量減少と予後の関連、日常生活動度、筋肉量変化に与える影響、PreSision-Rapidを用いた網羅的遺伝子解析の現状と臨床応用の可能性、術前化学療法中の5-FUの個体間変動、術後第1病日の痰培養検査の有用性、早期再発の予測因子、肺転移再発形式の臨床的特徴など、多角的な視点で研究に携わらせて頂く中で、多くの先生方から温かいご指導を賜り、



慶應義塾大学医学部
外科学（一般・消化器）
松井 一晃（93回）

論文報告をさせて頂くことが出来ました。また、大学院3年次には、食道癌・胃癌手術のハイボリュームセンターである埼玉医科大学国際医療センターに出向する機会を頂き、鏡視下手術の基本手技から大変丁寧なご指導を賜りました。多くの執刀の機会を頂くと同時に、膨大な患者数のデータベースを用いて、胃癌手術に関する複数の論文報告もさせて頂きました。

北川雄光先生、川久保博文先生、眞柳修平先生のご指導のもと、チーフレジデントとしての大学在任中に学位を取得させて頂き、2022年より国立病院機構東京医療センター、2024年より再度埼玉医科大学国際医療センターでスタッフとして勤務を致しました。食道癌に対する鏡視下手術や集学的治療、胃癌に対するロボット支援下手術に積極的に関わり、内視鏡外科学会技術認定医も取得させて頂くことが出来ました。また、大学院卒業後も自身の置かれた環境の中で出来る研究活動が続けたいと考え、85歳以上の超高齢者胃

癌の手術成績、ASA-PSと予後の関連、肥満症例に対するロボット支援下胃切除術の有用性、食道癌免疫療法中の免疫関連有害事象と治療成績、術前DCF療法中の筋肉量・栄養指標の評価など、継続的に論文報告が出来るように努めて参りました。

この度帰室をさせて頂くに際しまして、非常に微力ではございますが、これまでの経験をしっかりと活かし、わずかでも外科学教室の発展に貢献出来るよう一杯努めて参る所存でございます。最後になりますが、帰室の機会を与えて頂きました北川雄光先生をはじめ、尾原秀明先生、川久保博文先生、関連病院で温かいご指導を頂いた多くの先生方、そして刀林会の先生方に心より御礼を申し上げます。同時に、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

帰宅報告



慶應義塾大学医学部
外科学（一般・消化器）
森本 洋輔（94回）

このたび、北川雄光教授のご高配により2025年10月1日より帰宅させていただきしました94回生上部消化管班の森本洋輔と申します。私は、2015年3月に慶應義塾大学医学部を卒業し、2年間静岡赤十字病院で初期臨床研修を行い、2017年4月に慶應義塾大学医学部外科学教室に入局致しました。D3出張・

日野市立病院、D4出張・伊勢原協同病院を経て、2019年4月より大学レジデントとして帰宅し、上部消化管班に所属致しました。2020年4月より大学院（がんプロフェッショナルコース）へ進学し、2021年4月より1年間埼玉医科大学国際医療センター消化器外科（胃外科）にて櫻本信一教授のご指導のもと、

会横浜市東部病院に外向きして頂きました。済生会横浜市東部病院では胃癌、食道癌を中心に手術のみならず化学療法、放射線治療まで幅広く江川智久先生にご指導を賜り、多くの症例を経験させて頂きました。ポストチーフ出張の2年6ヶ月間で胃癌146例（うちロボット手術98件）、食道癌61例（うちロボット手術20件）と非常に多くの症例を執刀させて頂き、特にロボット支援手術に精力的に取り組みました。東部病院の伝統である、レジデントと手術をする、という環境は大いに成長する機会を与えてくれました。また、川久保博文先生にご指導頂き2025年1月よりロボット支援食道切除術を立ち上げたことは良い思い出となりました。幸い、ポストチーフ出張期間で食道外科専門医、内視鏡外科技術認定（胃）、ロボット支援手術プロクター（胃）を取得することができ、2026年1月付でロボット支援手術プロクター（食道）も取得予定となります。

最後になりますが、大学に帰宅する機会を与えてくださりました北川雄光教授および尾原秀明准教授、川久保博文准教授、そしてあたたかく支援してくださいました関連病院の先生方、刀林会の皆様にご心より御礼を申し上げます。これまで培った経験を少しでも外科学教室へ還元できるように精進して参ります。若輩者であり至らない点も多々あるかと存じますが、これからもご指導・鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



篠田 政幸（58回）

山歩きはやめて、旅行で世界遺産見学や神社・寺院・街歩きを楽しんでいます。以前はできなかった音楽史、美術史、植物の勉強、時々ダイビングをしています。所属学会は日本菌



鈴木 啓一郎（58回）

出身地の浜松に戻り医院を開業し今年で20年になります。



前田 耕太郎（58回）

チーフ出張の伊勢慶応病院よりスエーデンのLund



松井 淳一（58回）

本年6月から済生会宇都宮病院でアドバイザリース

この度、朝倉啓介教授のご高配により、帰宅させて頂きました外科学（呼吸器）95回生の鈴木嵩弘と申します。私は2016年に慶應義塾大学を卒業し、静岡赤十字病院での初期臨床研修終了後、2018年に外科学教室に入室いたしました。浜松赤十字病院への出向を経て、2019年より呼吸器外科を専攻し、3年間大学のレジデントと

してご指導をいただきました。その後、2022年より国立がん研究センター中央病院へ1年間、2023年より横浜市立市民病院へ2年間出向いたしました。国立がん研究センター中央病院は、本邦最多の肺癌手術件数を有する施設であり、限られた期間でも呼吸器外科領域の一連の定型化された術式を執刀・担当できたことは、異動後も振り返ることの多い貴重な経験となりました。同時に、異なるバックグラウンドを持つレジデントと切磋琢磨する中、教室の先輩である四倉正也先生には日頃から温かいご助言をいただきました。また、乳腺外科の首藤昭彦先生のお声かけで、思いがけず教室100周年記念祝賀会に寄せる集合写真に加えていただき、学外においても教室の先輩方のご

厚意を改めて認識いたしました。横浜市立市民病院では、吉津晃先生、重信敬夫先生の本当に根気強いご指導の下、大半の手術を執刀させて頂いたこと、入室初年度の浜松への出向期間と重なる充実した2年間を過ごしました。また、朝倉教授のお勧めで若手胸部外科医によるJATS-NEXT Annual Conferenceや外科感染症学会、国際漏斗胸研究会などのアドバンストな学会へ参加して見聞を広める機会にも恵まれました。一方で、病棟や救急外来になるべく顔を出すことよって気胸や膿胸などの準緊急手術は増えたものの、院外の医療連携が必要な肺癌症例の集患は上司に頼りきりだった

この度は、診療科を超えて叱咤激励をいただける若手のうちに、帰宅の機会を与えていただきました。外科学教室、刀林会の先生方には、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りたく何卒宜しくお願い申し上げます。

子は泌尿器科医で家族四人で近くに居を構えていて、いずれにも男の子二人ずつ孫がいます。近くの6歳写真、東京タワーにて」と4歳の二人に遊んでもらうのが楽しみです。この年齢になっても長い肝胆膵手術にも入って外科医を続けられて、家族仲良く暮らしている幸せに感謝しています。

ました。外科症例は少なく殆どが内科症例のために苦労しております。8年前にデイサービスを始めました。しかし、デイサービスの運営は思いのほか大変で苦労しております。また、デイサービスは祝日も利用者を受け入れているために自由な時間を作るのが難しく困っております。最近はお客防止のためにデイサービスの利用者記録をマイクロソフトのアクセスで作成しようと考えVBA、SQLを勉強しております。開業以来、運動もほとんどできず身体が硬くなり体力も低下し老化を実感しております。これではだめだと思い20年間休止していたゴルフを再開しようと考えレッスンを受け始めました。

大学マルメ総合病院、バーミンガム大学に留学後、社会保険埼玉中央病院を経て1995年に藤田保健衛生大学に転動しました。2004〜2017年まで大学で下部消化管外科の主任教授後、藤田医科（保健衛生）大学病院国際医療センター長・教授を務め、2022年から医療法人健

育会湘南慶応病院 副院長となり、2025年より現在の病院に勤務しています。外来は週半日、法人関連のいずみクリニックで主に排便障害の専門外来をやっています。大学を出てから下手なゴルフを始め、やっと100切りを達成し、90目指して精進しています。

刀林会
新入会者紹介



川崎市立川崎病院
心臓血管外科
益田 智章(90回相当)

この度刀林会に入会させていただきました。川崎市立川崎病院心臓血管外科の益田智章と申します。私は徳島県出身、香川大学卒業



東京都済生会中央病院
血管外科
尤礼佳(95回相当)

この度刀林会へ入会させていただきました。心より感謝申し上げます。



外川 貴望(99回)

初めまして、2020年慶應義塾大学医学部卒、医師6年目の外川貴望（そとかわきぼう）です。慶應義塾

102回生・102回相当



岩淵 拓哉

出身高校…西武学園 文理高校
出身大学…東京慈恵会医科大学
部活動…バスケットボール部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入局させていただきました。岩淵拓哉と申します。初期臨床研修をさいたま市立病院にて修了させ



小野 奎一郎

出身高校…久留米大学附設 高等学校
出身大学…近畿大学
部活動…サッカー部

本年度より慶應義塾大学医学部外科学教室に入局いたしました小野奎一郎と申します。初期臨床研修を国立病院機構埼玉病院で修了し、現在は練馬総合病院で



片倉 祐希

出身高校…青森県立 弘前高等学校
出身大学…弘前大学
この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局いたしました。片倉祐希と申します。初期臨床研修を川崎市立川崎病院で修了し、慶應義塾大学病院での半年間

の研修ののち、現在平塚市民病院にて外科研修をさせていただきます。先生方からの温かいご指導のもと、充実した日々を過ごすことができております。精一杯精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



勝又 悠貴

出身高校…開成高等学校
出身大学…横浜市立大学
部活動…水泳 古式泳法

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させていただきました。勝又悠貴と申します。初期研修を相模原協同病院で修了し、慶應義塾大学病院での半年間のローター



加藤 仁

出身高校…開成高校
出身大学…慶應義塾大学
部活動…バスケットボール部

この度慶應義塾大学医学部外科学教室に入居させていただきました。加藤仁と申します。初期研修は済生会宇都宮病院にて修了し、慶應義塾大学病院での半年の研修ののち、引き続き済

生会宇都宮病院で外科研修をさせていただきました。先輩方から熱心なご指導を賜り、大変充実した日々を過ごすことができました。今後とも精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



川口 幸太郎

出身高校…玉川学園高等学校
出身大学…東京慈恵会医科大学
部活動…スキー部

この度慶應義塾大学医学部外科学教室に入居させていただきました。川口幸太郎と申します。済生会横浜市東部病院での初期研修を終え、現在はJCHO埼玉メ

ディカルセンターでの修練をしております。先生方の熱心なご指導のもと、大変充実した毎日を過ごさせていただきました。今後とも精進して参ります。外科医として少しでも成長できるように、一日一日精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



菊永 裕陽

出身高校…聖徳学園高校
出身大学…岐阜大学
部活動…ラグビー部

本年度より外科学教室に入居しました菊永裕陽と申します。初期臨床研修を国際親善総合病院で修了したのち、半年間大学病院での研修を終え、現在は公立福生病院において修練を積

ませていただいております。これから外科医としての基礎を一から学び、伝統ある本教室の一員として邁進することを心がけ、患者さまに最良の医療を提供いたします。至らぬ点もあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



近藤 直樹

出身高校…武蔵高等学校
出身大学…慶應義塾大学
部活動…バスケットボール部

この度慶應義塾大学医学部外科学教室に入居させていただきました。近藤直樹と申します。足利赤十字病院にて初期研修を行い、半年間の大学病院研修を経て、この10月

より再度足利赤十字病院にて研修を積ませていただいております。諸先生方からの温かいご指導を賜り、刺激的で充実した外科専修医生活を送っております。まだ未熟ですが、今後とも精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



佐久間 俊光

出身高校…東大寺学園高校
出身大学…神戸大学
部活動…硬式テニス部

この度慶應義塾大学医学

部外科学教室に入室させて
いただきました。佐久間俊
光と申します。初期研修は
永寿総合病院にて修了し、
慶應義塾大学病院での半年
の研修のち現在国際親善
総合病院で外科研修をさせ
ていただいております。諸
先輩方から熱心なご指導を
賜り、充実した日々を過ご
すことができております。
今後とも精進して参ります
ので、ご指導ご鞭撻のほど
何卒よろしくお願い申し上
げます。



志田 健太

出身高校…東京都立
日比谷高等学校
出身大学…富山大学
部活動…サッカー部

この度、慶應義塾大学医
学部外科学教室へ入局させ

ていただきました102回
生相当の志田健太と申しま
す。初期研修を済生会横浜
市東部病院で修了し、半年
間の大学病院での研修を経
て、現在は栃木県の佐野厚
生総合病院にて池田先生、
尾野先生、松岡先生の熱い
御指導を賜りながら大変充
実した日々を過ごしており
ます。先輩方のような一流
の外科医となり世の中に貢
献すべく不断の努力をして
参りますので、今後ともご
指導ご鞭撻のほど何卒よろ
しくお願いいたします。



須貝 愛

出身高校…慶應義塾
女子高等学校
出身大学…慶應義塾大学
部活動…硬式庭球部

この度、慶應義塾大学医
学部外科学教室に入局いた
しました須貝愛と申します。
初期臨床研修を日本赤十字
社医療センターにて修了し、
慶應義塾大学病院での半年
間を経て、現在は川崎市立
井田病院にて研鑽を積ませ
ていただいております。先
生方のあたたかいご指導の
もと、日々充実した研修生
活を送っております。
今後ともより一層精進し
てまいりますので、ご指導
ご鞭撻のほどよろしくお願
い申し上げます。



諏訪 弘治

出身高校…甲陽学院
高等学校
出身大学…慶應義塾大学

かねてより oncology に

部活動…バレーボール部、
新聞部

この度、慶應義塾大学医
学部外科学教室に入室させ
ていただきました。諏訪弘
治と申します。静岡赤十字
病院での初期臨床研修を修
了し、慶應義塾大学病院で
の半年間の外科専門研修を
経て、現在はけいゆう病院
で修練を積ませていただい
ております。



平 智仁

出身高校…都立日比谷高校
出身大学…慶應義塾大学
部活動…剣道部

この度、慶應義塾大学医
学部外科学教室に入室させ
ていただきました平智仁と
申します。水戸赤十字病院
で初期研修を行い、半年間

の大学病院での研修を経て、
現在は日本鋼管病院で修練
を積ませていただいております。
先生方の熱心なご指
導の下、充実した毎日を過
ごしております。今後とも
精進してまいりますので、
ご指導ご鞭撻のほど何卒よ
ろしくお願い申し上げます。



竹林 七峰

出身高校…埼玉県立
大宮高等学校
出身大学…新潟大学
部活動…弓道部

この度、慶應義塾大学医
学部外科学教室に入室しま
した、竹林七峰と申します。
さいたま市立病院にて初
期研修を修了し、半年間の
大学研修を経て、現在は東
京都済生会中央病院にて修

練を積ませていただいてお
ります。
初期研修の頃から慶應の
先生方に変化お世話になり、
現在も先生方の熱心なご指
導のもと、充実した毎日を
過ごしております。まだま
だ未熟者ですが、日々精進
していく所存です。今後と
もご指導ご鞭撻のほど、何
卒よろしくお願い申し上げ
ます。



田島 萌

出身高校…慶應義塾
湘南藤沢高等部

この度、慶應義塾大学外
科学教室に入室させていた
だきました、田島萌と申し
ます。初期研修を済生会宇
都宮病院にて修了し、現在
は国立病院機構埼玉病院に
て研鑽を積まさせていただきます。
諸先輩方か
らの温かいご指導を賜り、



戸田 郁文

出身高校…学習院高等科
出身大学…三重大学
部活動…水泳部

この度、慶應義塾大学医
学部外科学教室に入局させ
ていただきました戸田郁文
と申します。初期臨床研修
を国立病院機構埼玉病院に
て修了し、現在は湘南東部
総合病院にて修練を積ませ

ていただいております。多
くの疾患、手術に向き合い、
諸先輩方より熱心なご指導
を賜り充実した日々を過ご
しております。努力を惜し
まず全力で精進して参りま
すので、今後ともご指導ご
鞭撻のほどよろしくお願い
申し上げます。



中原 英里

出身高校…桜蔭高校
出身大学…日本医科大学
部活動…馬術部
バドミントン部

この度、刀林会に入会さ
せていただきました102
回相当の中原英里です。
日本医科大学を卒業後、
上尾中央総合病院の研修を
経て外科学教室に入局致し

ました。
現在は日野市立病院で研
鑽を積んでおります。虫垂
炎やヘルニアの手術に格闘
しており上級医の先生方に
追いつくには修行が足りな
いと痛感する日々ですが、
不撓不屈の精神で精一杯努
力したいと思います。ご
指導ご鞭撻のほど何卒宜し
くお願い致します。



西山 有紗
(旧姓…山本)

出身高校…フェリス女学院
出身大学…慶應義塾大学
部活動…競走部

この度慶應義塾大学外科
学教室に入局させていただ
きました、西山有紗と申し
ます。初期研修は太田記念
病院にて修了し、慶應義塾
大学病院での半年の研修を

経て現在は稲城市立病院に
て研鑽を積ませていただい
ております。諸先輩方から
温かいご指導を賜り、充実
した専修医生活を送ってお
ります。日々成長できるよ
う精進して参りますので、
今後ともご指導ご鞭撻のほ
ど何卒宜しくお願い申し上
げます。



平松 知紗

出身高校…慶應義塾
女子高校
出身大学…北里大学
部活動…水泳部

この度、慶應義塾大学医
学部外科学教室に入室いた
しました、平松知紗と申し
ます。
川崎市立川崎病院にて初
期臨床研修、慶應義塾大学

病院にて外科研修を終了後、
現在国際医療福祉大学三田
病院にて日々研鑽を積ませ
ていただいております。先
生方からは手厚く優しいご
指導を賜り、日々少しでも
成長できるように精進して
まいりますので、ご指導ご
鞭撻のほど何卒よろしくお
願い申し上げます。



山下 将太郎

出身高校…慶應義塾
高等学校
出身大学…東北大学
部活動…ゴルフ部

この度慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂いたできました、山下将太郎と申します。

水戸赤十字病院での初期研修を経て、この10月から

多摩丘陵病院にて研鑽を積ませていただいております。諸先輩方より時に厳しく時に優しい指導を賜り、日々充実した研修を積ませていただいております。まだまだ未熟なところも多いですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



松本 侑希保

出身高校…長野県松本
深志高等学校
出身大学…北海道大学
部活動…室内楽部

この度慶應義塾大学医学
部外科学教室に入室させて
いただきました。松本侑希
保と申します。初期研修は
国家公務員共済組合連合会
斗南病院にて修了し、慶應

義塾大学病院での半年間を経て、現在北里大学北里研究所病院にて研鑽を積ませていただいております。先生方の温かいご指導のもと、充実した日々を過ごしております。諸先輩方に少しでも近づけるよう努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



松本 駿

出身高校…立教新座高校
出身大学…国際医療福祉大
部活動…ハンドボール部

学

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局いたしました、松本駿と申します。

初期研修は伊勢崎市民病院にて修了し、現在は太田

記念病院で外科研修をさせていたいております。諸先輩方より熱心なご指導を頂き、充実した日々を過ごさせて頂いております。日々精進し、謙虚に努力を重ねてまいります。至らない点も多々あるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



堀内 悠生

出身高校…慶應義塾
志木高等学校
出身大学…慶應義塾大学
部活動…サッカー部

この度外科学教室に入局
させて頂きました、堀
内悠生と申します。初期研
修は平塚市民病院にて修了
し、慶應義塾大学での半年
間の研修のち現在、川崎

市立川崎病院で外科研修をさせていただいております。諸先輩方から熱心なご指導を賜り、大変充実した日々を過ごすことができております。何事にも全力で挑戦して取り組んで参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

追悼記

黒田達夫先生を偲んで

慶應義塾大学医学部外科学（小児）教授

藤野 明浩 (75回)

令和7年10月4日、万人本のトップランナーとして

から敬愛されてやまない黒
達夫先生（神奈川県立こ
も医療センター総長兼院
長、慶應義塾大学医学部外
科学（小児）前教授、61回
工）が、ご家族に見守られ
ながらご逝去された。

小児外科診療において活躍
しながら、小児がん、先天
性囊胞性肺疾患、胆道閉鎖
症、鎖肛、肝血管腫と多く
の学術研究を先導し業績を
残された。その類い希な業
績とそして非の打ち所のない

黒田先生は、国内外の学芸・研究会にて皆を先導し、組織を発展させてきた。記録に残る功績はとも本紙面では記し尽くせない。早くに小児外科を志していた先生は、本学医学部を卒業後、米国MGHへの研究留学を経て、国立小児病院から国立成育医療研究センター、そして慶應義塾大学の小児外科のリーダーを務められた。常に日

い人格をもって、日本小児外科学会、日本周産期・新生児医学会、日本小児血液がん学会といった小児外科における主要な学会の理事、理事長、学術集會会長を務め学会をまとめ上げられた。環太平洋小児外科学会では2018年のlocal organizerを務められ国際的な架け橋としても長きにわたり大きな貢献をされ「日本の小児外科」を示さ



黒田達夫先生とアニメ

生の姿を私は決して忘れる

小児外科入局前に先生を知つて以来4半世紀、小児外科医の何たるかを細部に渡り常に教わりつつ、私は小児外科医の目標として先生の背中を追つてきた。実際には遙か先へ進んでいかれる先生に引つ張られて何りか。

とか付いていったというのが事実である。限りなくお世話になった。黒田先生は小児外科という仕事を通じて、ご自身の人間としての信念を体现されていると、私は常に感じていた。見ず知らずの人を含めて誰にでも親切で労を惜しまない、会話にはちよつと冗談を交ぜ相手を和ます、自身には厳しく、時間を守り、謙

先生の生き方は、立派な人間として、医師そして小児外科医として、そして師としてあるべき一つの理想の姿であつた。いつもそつと身近におられた巨人を突然失つてしまつたことはいまだに信じ難く、淋しい。しかし、先生が示し続けた穏やかな光は、私達に深く染み込んでいる。感謝の思ひは言葉に尽くせない。

虚、一方で自身の意見を明確に持ち必要な場で示す。そういった姿は常に皆の知るところであつたが、一方で、ご家族を限りなく愛し大切にする姿を折に触れて

「黒田達夫先生、先生は我々に大きな影響を残してくださいました。有難うございました。先生の笑顔を忘れません。どうぞ安らかに眠りください。」

多くの後輩、学生たちを
楽しそうに、分け隔てな
く、温かく導かれる黒田先



山本修三先生を偲んで

慶應義塾大学名誉教授

相川 直樹（47回）

刀林会の元理事長であられた山本修三先生は、本年6月9日に、満90歳にてご逝去されました。

山本先生は、昭和34年に本塾医学部をご卒業後、外科学教室にご入局、米国に研究員としてご留学のうちに、済生会神奈川県病院外科にご勤務されておりまし

た。山本先生と私（昭和43年卒）との出会いは、私が米国留学から帰国して、外科学教室の助手を2年間務めた後、昭和53年に関連病院への「出張」の指示があり、第一に希望した病院が、山本先生が外科部長になられた済生会神奈川県病院でした。この病院を選んだのは、山本先生の手術が「神業」との噂があったからです。

初めて山本先生ご執刀の手術の助手として観た先生の手術は、それ以前に、慶應病院や外科の出張病院、或いは米国MGHで観た手術とは全く違う、神業でした。当時の消化器外科の主な手術症例は、胃潰瘍、胃癌、大腸癌でしたが、病院が国道1号線沿いにあり、東名高速が開通したこともあつ

て、昼夜土日を問わず、重傷交通事故患者が運ばれてくることも多く、24時間体制で緊急手術が行われていました。山本先生は先頭に立って執刀され、先生の手術手技を助手として観た私は、先生の「神業」のような手術手技に大変驚きました。外傷が腹腔内臓器だけでなく、食道や脾臓、腎臓に及ぶ症例でも、他の外科医を呼ぶことなく執刀医として手術を進められました。そして術後管理も厳しいもので、ご自分が執刀、或いは助手に入り指導した術後患者の回診は、土日や祝祭日も朝9時からあり、私と同期の茂木正壽先生とは、山本先生の病棟回診に毎日付いて、所謂、「月火水木

金金」の外科勤務でした。そのような「厳しい外科研修」の噂を聞いた、内藤千秋さん（56回生、宇宙飛行士になられた「向井千秋」さん）が、外科研修2年目を山本先生のもとで行いたいと希望してきて、病院の一室に泊まり込んで研修をしました。

このように、超人のような臨床外科医であられた山本先生は、多くの学術論文を書かれた医学者でもあられました。更に、山本先生はスポーツも万能で、特にスキーは指導員クラス。一度、苗場にお供したことがありましたが、先生はリフトを降りると、グレンデではなく、リフトの鉄塔の下ので、



済生会神奈川県病院の夏の慰安旅行（1979年・熱海）
後列左から、山本修三先生、須藤政彦先生（30回）、前中由巳先生（36回）、行岡哲男先生（東京医科大学、昭和43年卒） 前列左から、茂木正壽君（47回）、向井千秋君（56回、旧姓内藤・後日の宇宙飛行士）筆者相川直樹（47回）

元理事長 山本修三先生のお別れの会を終えて

済生会神奈川県病院 院長

長島 敦（64回相）

9月19日、6月に90歳で逝去された刀林会元理事長、山本修三先生（済生会神奈川県病院名誉院長）のお別れの会が横浜ベイホテル東急で参列者131名をお迎えしてしめやかに執り行われました。刀林会の皆様から多くの供花をいただき、華やかな葬儀となりました。ありがとうございました。

山本先生は刀林会元理事長・済生会神奈川県病院名誉院長だけでなく、日本病院会名誉会長・Medical Excellence JAPAN名誉理

事長であられるため、刀林会理事長 松本 純夫先生、日本病院会 会長 相澤孝夫先生、Medical Excellence JAPAN会長 渋谷 健司先生と、済生会横浜市東部病院院長の三角 隆彦先生に、済生会神奈川県病院 現院長の私を加えた5名及びご親族が会の発起人となりました。

山本先生は昭和48年11月に済生会神奈川県病院に外科医長として赴任され、平成2年6月からは院長として平成14年3月に退任されるまで、日本の胸腹部外傷



を中心とした救急医学の確立と発展に、多大な功績を残され、またその卓越した手術技術で多くの医師を育成されました。平成9年3月には済生会神奈川県病院院長のまま済生会神奈川県支部業務担当理事に就任し、横浜市東部地域中核病院として済生会横浜市東部病院の開設に尽力されました。

平成16年4月からは日本病院会会長、平成19年6月から刀林会理事長を、平成25年4月からはMedical Excellence JAPAN理事長に就任されました。また先生のこれまでの多大な功績に対して、平成21年11月には旭日中綬章を授与され、令和7年6月従五位を追贈されました。

お別れの会では、山本先生の紹介をさせていただいた後、三角先生と相澤先生からお別れの言葉をいただきました。三角先生は直接山本先生からご指導いただいたときの思い出を熱く語っていただきました。外科医は365日、24時間働くのが当然とされた時代で、臨床と学問の二刀流を情熱的に教えていただき、それがご自身の外科医としての土台だったと山本先生を偲ばれました。相澤先生は、日本病院団体協議会の設立、アジア病院連盟会長や国際病院連盟理事としての国際的な活動など、会長在任中の功績を紹介され、山本先生が会長を務めた6年間は



診療体系グループ紹介

乳腺外科



慶應義塾大学医学部
外科学（乳腺）教授

林田 哲（77回）

2025年4月、慶應義塾大学医学部外科学教室において乳腺外科が新たな診療科として設立され、これまで運営して参りました慶應病院ブレストセンターの中核を担う体制が整いました。林田哲（77回生）を診療部長として、高橋麻衣子（特79回生）・関朋子（85回生）・永山愛子（86回生）・横江隆道（88回生）の5名のスタッフに加え、大学院生を含む6名のレジデントが在籍し、外科治療および薬物療法を中心とした診療を多面的に展開しています。北川雄光教授のご指導のもと、これまで進められてきた診療クラスター再編を経て、形成外科・腫瘍センター・緩和医療センター・産婦人科・放射線科と連携した包括的な乳腺診療体制が確立されました。これにより、乳房再建術や若年性乳がん患者における妊育性温存など、個々の患者の価値観に寄り添った医療提供が可能となっています。さ

らに、臨床遺伝学センターを中心として、HBOC（遺伝性乳癌卵巣癌症候群）センターが確立されて協働することにより、診療・カウンセリング・検査のスムーズな運用が実現しています。近年は従来の手術・薬物療法に加え、ラジオ波焼灼術（RFA）を導入し、早期乳癌の一部に対して低侵襲かつ整容性に優れた治療選択肢を提供しています。また、がんゲノム医療への対応も積極的に進めており、個々の腫瘍特性に基づいた最適治療を行うべく、ゲノムパネル検査結果を臨床に迅速に反映する体制を構築しました。これらの取り組みにより、診療の幅が飛躍的に拡大しています。教育面では、高橋・関を中心に診断から治療までの一貫した教育を若手医師に行い、放射線診断科との合同カンファレンスにより画像診断能力の向上を図っています。研究活動では、永山・横江がメンターとして

レジデント・大学院生の基礎・臨床研究を指導し、AIを活用した画像診断支援システムの開発や、IoT技術を用いた患者QOL向上の取り組みなど、次世代医療に資するテーマを推進しています。乳腺外科として新たな一歩を踏み出した今、我々は「科学的根拠に基づきながらも、思いやりのある医療」を理念として、先進的かつ患者中心の診療を追求し続けます。慶應医学の伝統を継承しつつ、未来の乳癌医療を切り拓くべく、教室一丸となって努力を重ねてまいります。刀林会の先生方には、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

開業

世田谷血管クリニック

令和7年2月26日に、東京都世田谷区を用賀駅（田園都市線）近くに「世田谷血管クリニック」を開院いたしました。私は、平成12年に卒業後、外科学教室に入局し、フレッシュマン出張を経て、平成15年より一般・消化器外科血管班、移植班に所属いたしました。松本賢治先生、尾原秀明先生、移植班の諸先生方のご指導のもとレジデント時代を過ごし、ポストチーフ出張では立川病院にて多くの消化器外科手術を経験させていただきました。平成22年より血管班・移植班スタッフとして大学に帰室し、途中1年半の米国への研究留学を挟んで、令和6年までの約12年間、北川雄光教授、尾原秀明先生のご指導のもと、大学での臨床、研究、教育でたくさんの貴重な経験をさせていただきました。令和6年4月から開業までは、済生会中央病院血管外科部長として働かせていただき、原田裕久先

生のもと、いわゆるハイボリウムセンターの血管外科も経験させていただきました。心臓血管外科専門医および消化器外科専門医として、血管内治療などの低侵襲治療から肝移植を含む拡大手術まで、多くの手術を経験し、また優秀な後輩外科医と共に仕事をする中で、大きなやりがいと充実感を感じておりました。このような中、自分の外科医人生の後半戦を意識した時に、これまでとはまったく異なる領域の開業医として、新たな一歩を踏み出すことに興味が生ええました。当クリニックの診療内容は、下肢静脈瘤や閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症から、下肢のむくみや冷えまで、幅広く血管疾患に対応しております。手術室を完備し、下肢静脈瘤と透析シャント関連（内シャント造設術やバルーン拡張術）の日帰り手術に特に力を入れております。さらに、高血圧や脂質異常症といった

生活習慣病を含む一般内科診療も行い、地域のかかりつけ医として、健康維持のサポートもさせていただければと考えております。血管の病気は、専門的な診察ができる医師がまだまだ多くはありません。血管の悩みを持つ患者さんが、気軽に相談・受診いただける場所を、地域の皆さまに提供し、わかりやすく丁寧な説明と真摯な対応を心掛け、皆さまに信頼いただけるクリニックを目指してまいります。刀林会の皆さまには、今後ともご指導とご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



松原 健太郎（79回）



